

基礎分野

科目名	健康運動科学		指導担当者名	藤沼 宏彰	
実務経験	運動療法士として病院に勤務していた			実務経験	有
学年・時期	2年次・後期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	健康の保持・増進に関する運動の知識とその具体的な方法を学ぶ。				
学習目標	1. 健康の保持・増進と運動の関係について理解する。 2. 生活習慣病における運動の意義と実施方法について理解する。 3. 健康の維持・増進のための運動を実践する。				
評価方法 評価基準	筆記・実技試験A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	藤沼宏彰:糖尿病と運動, 医歯薬出版社, 2005				
授業外学習 の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	健康と体力	1. 体力のとらえ方 2. 体力の評価法		
	2		1. 姿勢の確認 2. ストレッチング		
	3	病院における運動療法の実際	1. 運動療法施設の見学 太田西ノ内病院運動指導室		
	4	自己の身体組成を知る	1. In Body 測定と評価		
	5	健康と運動	1. 体型と体力		
	6	健康のための運動の実践1	1. 体力測定		
	7	生活習慣病と運動1	1. 肥満と運動 2. 肥満の予防と改善		
	8	健康のための運動の実践2	1. ストレッチング 2. 筋力トレーニング		
	9	生活習慣病と運動2	1. 糖尿病と運動 2. インスリンの働きと運動		
	10	健康のための運動実践3	1. ストレッチング 2. 有酸素運動(ウォーキング)		
	11	生活習慣病と運動3	1. 運動処方 2. 運動療法の実際		
	12	健康のための運動実践4	1. ストレッチング 2. レクリエーションスポーツ1		
	13	健康とスポーツ	1. 自らの健康づくりと運動 2. 生涯スポーツ		
	14	健康のための運動実践5	1. ストレッチング 2. レクリエーションスポーツ2		
	15	健康とスポーツ	1. ストレッチング 2. レクリエーションスポーツ3・長縄		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門基礎分野

科目名	栄養学		指導担当者名	庄司 由美子	
実務経験	管理栄養士として老人福祉施設勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	1年次・前期			対象学科学年	看護学科 1年
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15時間			週時間数	2時間
学習目的	健全な生命活動を営むために必要な栄養について学び、栄養素摂取量の不均衡・不足・過剰などの状態を改善するための看護の役割について考える能力を養う。				
学習目標	1.生命活動に必要な栄養について理解する。 2.栄養における看護の役割について理解する。 3.臨床栄養学の基本的な知識と役割を理解する。				
評価方法	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	よくわかる栄養学 金原出版				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	食べ物と栄養素	1. 食品 2. 食品の成分と栄養素 3. 調理		
	2	からだの仕組み 消化吸収と栄養素の働き	1. からだと栄養素 2. 栄養素の種類		
	3	ライフステージと栄養	1. 乳幼児期の栄養 2. 学童期・思春期・青年期の栄養 3. 成人期 4. 老年期		
	4	エネルギー代謝	1. エネルギーの獲得 2. 生理的燃焼価		
	5	食事摂取基準 健康の維持増進と栄養	1. 食事摂取基準とは 2. 疫学的調査と衛生統計		
	6	栄養アセスメント 栄養補給方法	1. 栄養アセスメント 2. 治療食の基準 3. 栄養補給方法		
	7	疾病と個別対応 栄養サポート	1. 疾病と栄養管理 2. 医療に必要な栄養サポート 3. からだづくりに必要な栄養サポート		
	8	まとめ			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

基礎分野

科目名	人間関係論		指導担当者名	内藤秀明
実務経験	歯科医師として診療業務に従事している。		実務経験	有
開講時期	1年次・前期		対象学科学年	看護学科 1年
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	2時間
学習目的	日常的なものも含めて、人間関係と社会関係の発達と共に、人間としての存在と関係性のあり方について学ぶ。			
学習目標	1.人間の関係の諸様相について理解を深める。 2.自我発達と社会化のプロセスとの関連について理解を深める。 3.看護における人間関係の構築について理解する。			
評価方法 評価基準	筆記試験			
使用教材	講師作成資料			
授業外学習の方法	特になし			
学期	ターム	項目	授業内容	
授業計画 前期	1	人間関係のとらえ方	1.人間関係の基本的意義 2.看護ケアにおける人間関係のとらえ方 3.対話的関係の展開	
	2	人間関係と構築	1.対話的関係の展開 演習 1対1のコミュニケーション	
	3	自己基盤	1. アンガーマネジメント	
	4	コミュニケーション	演習 ノンバーバルコミュニケーション	
	5	コミュニケーションのスキル	演習 傾聴の方法	
	6	多様性の理解と人間関係	演習 状況に応じたコミュニケーションスタイル	
	7		演習 質問と承認のスキル	
	8	まとめ		
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。				

基礎分野

科目名	家族関係論		指導担当者名	鈴木邦子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
学年・時期	1年次・前期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	4時間	
学習目的	家族について客観的に捉えることにより、家族を学問として学び、看護の対象である家族について理解を深める。				
学習目標	1.家族とは何かについて理解する。 2.夫婦・親子を基盤とした家族関係について理解する。 3.現代の家族像を理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験				
使用教材	講義時資料配布				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	ターム	家族とは何か	1.家族の定義 2. 家族の機能と役割		
	2	家族の社会的特性	1.家族機能 2.家族と社会		
	3	家族関係	1.家族関係演習 2.ジェノグラム演習		
	4	家族システム	1. 夫婦の関係論 2. 配偶者以外の家族関係		
	5	家族システム	1. 親になること 2. 子どもをめぐる家族の関係		
	6	子どもにとっての家族	1. 子どもが安心できる家庭とは 2. 子どもの自立と成長のための家族と家庭		
	7	暮らしから見る家族関係	1. 食習慣に見る家族関係 2. 住まいのあり方と家族関係 3. 家族面接デモンストレーション		
	8	高齢社会の中の家族	1. 長生きと幸せ		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				

履修上の留意点

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。

専門基礎分野

科目名	臨床薬理		指導担当者名	三坂 真元
実務経験	薬剤師として病院に勤務している		実務経験	有
開講時期	2年次・前期		対象学科学年	看護学科 2年
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	4時間
学習目的	薬物と生体の関係を総合的に理解し、看護における基本的な薬理の知識を修得する。			
学習目標	1.薬物治療の目的と薬物治療に伴う反応について理解する。 2.医薬品の安全対策、医薬品による健康被害について理解する。 3.医薬品の管理について理解する。			
評価方法	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)			
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。			
使用教材	系統看護学講座 専門基礎 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3 医学書院			
授業外学習の方法	特になし			
学期	ターム	項目	授業内容	
授業計画 前期	1	薬物治療の基本	1.薬としての基本的性質と使用目的 2.薬による病気の治療 3.薬物療法における看護師の役割	
	2	薬理作用の基本	1.薬理作用の基本形式 2.薬の治療域と作用点 3. 薬の投与経路	
	3	薬理作用の機序	1.吸収と分布 2.薬物の代謝と排泄 3.血中濃度と半減期	
	4	薬効に影響する因子	1.年齢 2.薬理遺伝的形質 3.反復投与による影響	
	5	薬物相互作用	1.吸収に影響を与える薬物相互作用 2.分布に影響を与える薬物相互作用 3.代謝・排泄に影響を与える薬物相互作用	
	6	薬物中毒(薬害)	1.薬物の過量が起こる背景 2.薬物使用の有益性と有害性 3.臓器に特有の有害作用	
	7	薬の管理	1.医薬品に対する法令 2.管理に注意を要する薬剤(劇・毒・要指示薬、麻薬) 3.医薬品情報	
	8	まとめ	評価	
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。				

専門基礎分野

科目名	臨床薬理		指導担当者名	三坂 眞元	
実務経験	薬剤師として病院に勤務している			実務経験	有
開講時期	2年次・前期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	疾患の病態生理に基づく薬物の治療予防について学び、看護を展開するために必要な薬理的知識を修得する。				
学習目標	1.治療薬の作用機序について主作用と副作用について理解する。 2.治療薬の使用方法について理解する。 3.薬物治療上注意が必要な対象の個別性について理解する。				
評価方法	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門基礎 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3 医学書院				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	抗感染症薬	1.感染症治療に関する薬の基本 2.抗菌薬 3.感染症治療における問題点		
	2	抗がん薬	1.がん治療に関する薬の基本 2.抗がん薬 3.抗がん薬の薬剤耐性の問題点		
	3	免疫治療薬	1.免疫反応の基本 2.免疫抑制・増強薬 3.予防接種薬		
	4	抗アレルギー・ 抗炎症薬	1.抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬 2.炎症と抗炎症薬 3.関節リウマチ・痛風治療薬		
	5	末梢神経活動作用薬	1.自律神経系の薬の作用 2.交感神経・副交感神経作用薬 3.筋弛緩薬・局所麻酔薬		
	6	中枢神経系作用薬	1.中枢神経系の薬の作用 2.全身麻酔薬 3.催眠薬・抗不安薬・抗精神薬・麻薬性鎮痛薬		
	7	心臓・血管系作用薬	1.抗高血圧薬・狭心症治療薬 2.利尿薬 3.血液に作用する薬物		
	8	呼吸器・消化器系作用薬	1.気管支喘息治療薬 2.鎮咳薬・去たん薬・呼吸促進薬 3.消化性潰瘍治療薬・健胃薬		
	9	生殖器作用薬	1.性ホルモン 2.子宮収縮薬 3.生活改善薬(経口避妊薬・勃起不全治療薬)		
	10	物質代謝作用薬	1.ホルモン 2.ホルモン拮抗薬 3.治療薬としてのビタミン		
	11	皮膚科・眼科用薬	1.皮膚科・眼科用薬の特徴 2.皮膚に使用する薬物 3.眼科外用薬		
	12	救急の際の薬物	1.救急蘇生時の薬物 2.救急・急変時の薬物 3.急性中毒に対する薬物		
	13	漢方薬	1.漢方薬の特徴 2.漢方薬の用法 3.漢方薬の有効性・副作用		
	14	消毒薬	1.消毒薬の特徴 2.消毒薬の特徴 3.消毒薬の適用 (希釈濃度計算を含む)		
	15	まとめ	重点事項のふりか		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門基礎分野

科目名	微生物学		指導担当者名	前田 順子
実務経験	検査技師として病院に勤務している		実務経験	有
開講時期	1年次・後期		対象学科学年	看護学科 1年
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	2時間
学習目的	病原微生物の特徴を学び、感染の特徴的な様式や病原性について学ぶ。			
学習目標	1.病原性微生物の特徴を理解する。 2.感染の特徴的な様式・病原性・診断について理解する。 3.感染の防御について理解する。			
評価方法	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)			
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。			
使用教材	系統看護学講座 専門基礎6 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進3 医学書院			
授業外学習の方法	特になし			
学期	ターム	項目	授業内容	
授業計画 後期	1	微生物と微生物学	1.微生物の歴史 2.微生物の性質と種類	
	2	細菌・真菌・原虫・ウイルスの性質	1.細菌の性質 2.真菌・原虫の性質 3.ウイルスの性質	
	3		4. 内毒素・外毒素	
	4	生体防御機構	1.自然免疫 2.獲得免疫	
	5	感染源・感染経路	1.経口感染 2.経気道・接触・経皮感染 3.母児感染	
	6	感染の予防	1.滅菌と消毒 2.ワクチンと予防接種 3.感染予防の理念	
	7	感染症の診断・治療	1.病原体を検出する方法・生体の反応から診断する方法 2.化学療法の基礎 3.各種化学療法薬	
	8	病原細菌	1.グラム陽性 2.グラム陰性球菌 3.グラム陰性好気性桿菌 4.グラム陰性通性菌	
	9		5.カンピロバクターとヘリコバクター属 6.グラム陽性桿菌	
	10		7.抗酸菌・放線菌類 8.嫌気性菌 9.スピロヘータ・リケッチア目・クラミジア他	
	11	病原真菌・病原原虫	1.深在性真菌症・深部皮膚真菌症・表在性真菌症 2.根足虫類・鞭毛虫類 3.孢子虫類	
	12	DNAウイルス	1.ポックスウイルス科 2.ヘルペスウイルス科	
	13		3.アデノウイルス科他	
	14	RNAウイルス	1.オルトミクソウイルス科 2.パラミクソウイルス科 3.ピコルナウイルス科	
	15		4.フラビウイルス科 5.コロナウイルス科 6.肝炎ウイルス他	
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。				

専門基礎分野

科目名	病態生理学Ⅰ		指導担当者名	今田 剛	
実務経験	医師として病院に勤務している			実務経験	有
開講時期	1年次・後期			対象学科学年	看護学科 1年
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間			週時間数	2時間
学習目的	人体の構造と機能が破綻したときの病態とその治療および検査を学習し、疾病が及ぼす影響を理解し、対象のアセスメントおよび看護展開ができる基礎的能力を養う。				
学習目標	1.人体の各器官系統(呼吸器系、循環器系)の障害における病態生理を理解する。 2.人体の各器官系統(呼吸器系、循環器系)の障害における診断・治療・検査について理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器 経口看護学講座 成人看護学[3] 循環器				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	感染症の理解	1.かぜと急性気管支炎 4.インフルエンザ 2.肺炎 3.結核		
	2	気道疾患の理解	1.気管支喘息 2.気管支拡張症 3.慢性閉塞性肺疾患 4.肺血栓塞栓症		
	3	呼吸不全の理解	1.呼吸不全 2.急性呼吸促進症候群 3.肺性心		
	4	呼吸調節に関する疾患の理解	1.過換気症候群 2.睡眠時無呼吸症候群		
	5	肺腫瘍の理解	1.良性腫瘍 2.悪性腫瘍 1)肺がん		
	6	検査・処置	1.画像診断 2.内視鏡検査と生検 3.呼吸機能検査		
	7	呼吸器疾患の外科的療法	1.開胸術と肺切除 2.呼吸器外科手術に伴うおもな合併症とその対策 3.胸腔鏡手術		
	8	虚血性心疾患の理解	1.メタボリックシンドローム 2.狭心症 3.心筋梗塞		
	9	心不全の理解	1.心不全とは 1)左心不全 2)右心不全		
	10	血圧異常と不整脈の理解	1.高血圧の基準・分類とその影響および治療 2.刺激生成の異常と興奮伝導の異常による不整脈 3.不整脈の治療		
	11	弁膜症・心膜炎・心筋疾患の理解	1.弁膜症 1)僧帽弁 2)大動脈弁 3) 感染性心内膜炎 2.心膜炎 3.心筋疾患		
	12	動・静脈系疾患の理解	1.大動脈瘤、大動脈解離 2.深部静脈血栓症		
	13	検査・治療・処置	1.心電図 2.心臓カテーテル法および心臓カテーテル治療 3.ペースメーカー治療		
	14	循環器疾患の外科的療法	1.心臓外科の周手術期管理 2.冠状動脈バイパス術		
	15		3. 弁置換術		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門基礎分野

科目名	病態生理学Ⅱ		指導担当者名	村田智史・大竹俊哉	
実務経験	村田:医師として病院に勤務している 大竹:医師として病院に勤務している			実務経験	有
開講時期	1年次・後期		対象学科学年	看護学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	2時間	
学習目的	人体の構造と機能が破綻したときの病態とその治療および検査を学習し、疾病が及ぼす影響を理解し、対象のアセスメントおよび看護展開ができる基礎的能力を養う。				
学習目標	1.人体の各器官系統(運動器系、消化器系)の障害における病態生理を理解する。 2.人体の各器官系統(運動器系、消化器系)の障害における診断・治療・検査について理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 成人看護学[10] 運動器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[5] 消化器 医学書院				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	運動器疾患の検査・治療・処置	1.画像検査および関節鏡検査 2.保存的療法 1)ギブス包帯法、絆創膏包帯法 2)副子法 3)牽引		
	2	骨折の理解	1.骨折の分類と転位 2.骨折治癒の病態生理および症状 3.骨折の治療 1)骨折治療の原則 2)救急処置		
	3	各種の骨折の理解	1.上腕骨骨折の病態生理および診断・治療 2.大腿骨頸部骨折の病態生理および診断・治療		
	4	神経の損傷の理解	1.脊髄損傷の病態生理および診断・治療 2.末梢神経損傷の病態生理および診断・治療 1)腕神経叢麻痺 2)橈骨・尺骨・正中・坐骨・腓骨神経麻痺		
	5	先天性疾患および骨・関節の炎症性疾患の理解	1.先天性筋性斜頸 2.先天性股関節脱臼 3.先天性内反足 4.変形性関節症 5.関節リウマチ 6.痛風		
	6	骨腫瘍および脊椎の疾患の理解	1.骨肉腫 2.腰椎椎間板ヘルニア 3.骨粗鬆症		
	7	消化器症状のメカニズム	1.各症状・徴候とその病態生理 1)嘔気・嘔吐 2)腹痛 3)吐血・下血 4)下痢・便秘 5)腹部膨満 6)腹水 7)黄疸 8)肝性脳症		
	8	消化器疾患の検査・処置	1.内視鏡検査 2.肝生検 3.放射線検査 1)消化管透視 2)ERCP 3)PET		
	9	食道の疾患の理解	1.食道の疾患の病態生理および診断・治療 1)食道がん 2)食道アカラシア 3)胃食道逆流症		
	10	胃・十二指腸疾患の理解	1.胃・十二指腸疾患の病態生理および診断・治療 1)胃炎 2)胃・十二指腸潰瘍 3)胃癌		
	11	腸および腹膜疾患の理解	1.腸および腹膜疾患の病態生理および診断・治療 1)過敏性腸症候群 2)腸炎 3)腹膜炎 4)虫垂炎 5)ヘルニア 6)イレウス 7)結腸癌、直腸がん 8)肛門疾患		
	12	肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の理解	1.肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の病態生理および診断・治療 1)肝炎 2)肝硬変症 3)門脈圧亢進症 4)肝がん 5)胆石症 6)膵炎 7)膵臓がん		
	13	消化器疾患の外科的療法	1.手術療法(開腹術・腹腔鏡)の実際 1)胃がんの術式と術前・術後管理 2)胆石症の術前・術後管理 3)大腸がん・直腸がんの術式と術前・術後管理		
	14				
	15		4)術後合併症の原因と対処		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門基礎分野

科目名	病態生理学Ⅲ		指導担当者名	今田 剛
実務経験	医師として病院に勤務している		実務経験	有
開講時期	1年次・後期		対象学科学年	看護学科 1年
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間
学習目的	人体の構造と機能が破綻したときの病態とその治療および検査を学習し、疾病が及ぼす影響を理解し、対象のアセスメントおよび看護展開ができる基礎的能力を養う。			
学習目標	1.人体の各器官系統(血液・造血器系、免疫系、感染症、感覚器系)の障害における病態生理を理解する。 2.人体の各器官系統(血液・造血器系、免疫系、感染症、感覚器系)の障害における診断・治療・検査について理解する。			
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。			
使用教材	病気が見える5血液(メディックメディア) 病気が見える6免疫・膠原病・感染症(メディックメディア) 系統看護学講座 専門8 成人看護学4 血液・造血器、専門15 成人看護学11 アレルギー 膠原病 感染症、専門16 成人看護学12 皮膚、専門17 成人看護学13 眼、専門18 成人看護学14 耳鼻咽喉、専門19 成人看護学15 歯・口腔、医学書院			
授業外学習の方法	特になし			
学期	ターム	項目	授業内容	
授業計画 後期	1	血液・造血器疾患の検査および治療	1.骨髓穿刺 2.化学療法 3.造血幹細胞移植	
	2	赤血球の疾患および白血球の疾患の理解	1.貧血の病態生理および診断・治療 2.白血病の病態生理および診断・治療 1)急性白血病 2)成人T細胞白血病	
	3	出血性疾患の理解	1.血管異常による出血性疾患 2.血小板異常および凝固異常の治療 1)血友病 2)DIC	
	4	アレルギー反応とその機序および治療	1.免疫のしくみと抗原・抗体 2.アレルギーの分類と反応 3.薬物療法 4.減感作療法	
	5	自己免疫疾患の発生機序と膠原病の理解	1.関節リウマチの病態生理と治療 2.全身性エリテマトーデスの病態生理と治療 3.シェーグレン症候群・ベーチェット病の病態生理と治療	
	6	感染のメカニズムと感染症の理解	1.感染のメカニズム 2.薬物療法および化学療法、血清療法 3.菌血症および敗血症の病態生理と治療 4.HIV感染症の病態生理と治療	
	7		5.日和見感染症の病態生理と治療 1)薬剤耐性菌 6.性感染症の病態生理と治療	
	8	眼の疾患の理解	1.機能の障害における診断・治療 1)屈折・調節の異常 2)色覚の異常 3)眼位・眼球運動の異常 2.眼瞼・結膜・角膜の疾患の病態生理および診断・治療	
	9		3.眼底の疾患の病態生理および検査・診断・治療 4.白内障および緑内障の病態生理および検査・診断・治療 5.手術療法の原理と合併症予防	
	10	耳鼻咽喉の疾患の理解	1.主な耳の疾患の病態生理および検査・診断・治療(手術も含む) 1)聴力・平衡機能検査 2)中耳炎 3)メニエール病 4)難聴 2.主な鼻の疾患の病態生理および検査・診断・治療(手術も含む)	
	11		1)副鼻腔検査 2)鼻出血 3)鼻炎 4)副鼻腔疾患 3.主な咽喉頭の疾患の病態生理および検査・診断・治療(手術も含む) 1)扁桃炎 2)咽頭がん 3)喉頭がん	
	12	皮膚の疾患の理解	1.主な皮膚の症状とその病態生理および検査と治療・処置 1)発疹 2)掻痒 3)免疫・アレルギー検査 4)光線過敏性検査 5)内服療法 6)外用療法 7)光線療法 8)レーザー療法	
	13		2.主な皮膚の疾患の病態生理および診断・治療 1)湿疹・アトピー性皮膚炎 2)蕁麻疹群 3)薬疹 4)凍傷 5)褥創 6)白癬 7)疥癬	
	14	口腔の疾患の理解	1.主な口腔の疾患の病態生理および検査・診断・治療(手術も含む) 1)舌がん 2)口唇裂・口蓋裂	
	15		3)アフタ及びアフタ類似疾患 4)顎関節症	
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。				

専門基礎分野

科目名	病態生理学Ⅳ		指導担当者名	今田 剛
実務経験	医師として病院に勤務している		実務経験	有
開講時期	1年次・後期		対象学科学年	看護学科 1年
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間
学習目的	人体の構造と機能が破綻したときの病態とその治療および検査を学習し、疾病が及ぼす影響を理解し、対象のアセスメントおよび看護展開ができる基礎的能力を養う。			
学習目標	1.人体の各器官系統(脳・脳神経系、内分泌系)の障害における病態生理を理解する。 2.人体の各器官系統(脳・脳神経系、内分泌系)の障害における診断・治療・検査について理解する。			
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。			
使用教材	病気が見える 7 脳神経(メディックメディア) 病気が見える 3 糖尿病・代謝・内分泌(メディックメディア) 系統看護学講座 専門11 成人看護学7 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門10 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院			
授業外学習の方法	特になし			
学期	ターム	項目	授業内容	
授 業 計 画 後 期	1	脳神経疾患の症状と病態生理	1.意識障害 2.高次脳機能障害 1)失語症 2)失行と失認 3)認知症 3.運動機能障害、感覚機能障害	
	2		4.反射性運動の障害 1)瞳孔の症状 2)嚥下障害 3)排泄障害 5.頭蓋内圧亢進と脳嵌入 *モデル人形の活用 6.髄膜刺激症状と頭痛	
	3	脳疾患の理解 (保存的療法と外科的療法)	1.脳血管障害 1)クモ膜下出血 2.脳内出血	
	4		3.脳梗塞 1)脳出血 2)脳塞栓 4.TIA	
	5		5.脳腫瘍 6.頭部外傷 7.水頭症	
	6	脳・神経の変性疾患と末梢神経疾患の理解	1.パーキンソン病 2.多発性ニューロパチー	
	7	神経・筋疾患の理解	1.重症筋無力症 2.進行性筋ジストロフィー 3.筋萎縮性側索硬化症	
	8	脳・神経の感染症およびてんかんと認知症の理解	1.脳炎 2.髄膜炎 3.てんかんの部分発作と全般発作および重積発作 4.アルツハイマー病および脳血管性認知症	
	9	内分泌疾患の理解	1.視床下部-下垂体前葉系疾患と下垂体後葉系疾患の診断と治療 2.甲状腺疾患の診断と治療(外科的療法も含む) 1)バセドウ病 2)甲状腺腫瘍	
	10		3.副甲状腺疾患の診断と治療 4.副腎疾患の診断と治療 5.内分泌疾患の救急治療 1)甲状腺クリーゼ	
	11		1.糖尿病の症状および診断・治療 1)糖尿病の分類および病態生理 2)糖尿病の診断・治療 3)糖尿病の慢性合併症とその治療	
	12	代謝疾患の理解	4)糖尿病の救急治療	
	13		2.高脂血症の病態生理および診断・治療	
	14		3.肥満症とメタボリックシンドロームの病態生理および診断・治療 4.尿酸代謝障害の病態生理および診断・治療 1)痛風 2)高尿酸血症	
	15			
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。				

専門基礎分野

科目名	病態生理学Ⅴ		指導担当者名	新田 浩司 千葉 志保	
実務経験	新田:医師として病院に勤務している 千葉:助産師として病院に勤務している			実務経験	有
開講時期	2年次・前期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	2時間	
学習目的	人体の構造と機能が破綻したときの病態とその治療および検査を学習し、疾病が及ぼす影響を理解し、対象のアセスメントおよび看護展開ができる基礎的能力を養う。				
学習目標	1.人体の各器官系統(腎・泌尿器系、生殖器系)の障害における病態生理を理解する。 2.人体の各器官系統(腎・泌尿器系、生殖器系)の障害における診断・治療・検査を理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門12 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門13 成人看護学9 女性生殖器 医学書院				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	腎・泌尿器疾患の症状と病態生理	1.尿および排尿に関連した異常 2.浮腫 1)腎性浮腫 2)ネフローゼ性浮腫 3.腎性高血圧		
	2	腎・泌尿器疾患の検査	1.主なX線検査 1)静脈性腎盂造影 2)静脈性尿路造影 2.膀胱鏡検査 3.生検		
	3	主な腎疾患の理解	1.急性腎不全・慢性腎不全の病態生理および診断・治療 2.糸球体腎炎の病態生理および診断・治療 3.ネフローゼ症候群の病態生理および診断・治療 4.糖尿病性腎症の病態生理および診断・治療 5.ループス腎炎の病態生理および診断・治療 6.腎がんの病態生理および診断・治療 7.透析療法 *人工透析機の活用		
	4		1)血液透析の原理と合併症 2)腹膜透析の原理と合併症 8.腎移植 1)組織適合試験 2)手術と免疫抑制療法		
	5				
	6		1.尿路結石症の病態生理および診断・治療 2.前立腺肥大症の病態生理および診断・治療 3.前立腺がんの病態生理および診断・治療		
	7	尿路・性器の感染症の理解	1.腎盂腎炎・膀胱炎・尿道炎の病態生理および診断・治療 2.性感染症の病態生理および診断・治療 1)淋菌性尿道炎 2)非淋菌性尿道炎		
	8	腎・泌尿器の発生・発育の異常および男性生殖器障害	1.腎臓・膀胱・尿道・精巣の先天異常 2.性分化異常 1)半陰陽 2)クラインフェルター症候群 3)ターナー症候群 3.男性不妊症と勃起障害		
	9	女性生殖器の発生と分化の異常	1.発生と分化の異常 1)性の理解 2)女性生殖器の構造 2.生殖器の位置異常		
	10	女性の性周期と内分泌機能	1.性周期と性ホルモン 2.不妊症		
	11	婦人科感染症	1.感染症法の規定 2.主な感染症と病原体		
	12	子宮の腫瘍	1.子宮筋腫 2.子宮内膜症 3.婦人科手術		
	13	婦人科悪性腫瘍	1.子宮悪性腫瘍 1)子宮頸がん 2)子宮体がん		
	14	卵巣腫瘍	1.卵巣腫瘍の特徴 2.卵巣の良性腫瘍と悪性腫瘍		
	15	乳房の疾患	3.乳房の腫瘍		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門基礎分野

科目名	病態生理学Ⅵ		指導担当者名	阿部 文一郎 安中 みい子	
実務経験	阿部:看護師として精神科病院に勤務している 安中:小児専門看護師として病院に勤務している			実務経験	有
開講時期	2年次・前期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	2時間	
学習目的	精神の構造と機能および小児の人体の構造と機能が破綻したときの病態とその治療および検査を学習し、疾病が及ぼす影響を理解し、対象のアセスメントおよび看護展開ができる基礎的能力を養う。				
学習目標	1.精神の障害における病態生理を理解する。 2.精神の障害における診断・治療・検査について理解する。 3.小児における人体の各器官系統の疾患における病態生理を理解する。 4.こどもとは何か。大人とどう違うのか。成長発達という小児期に特有な現象を念頭において、こどもの病気を考える。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 精神看護学の基礎 精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門23 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院 (小児看護学②)				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	さまざまな精神症状	1. 精神症状・思考の障害・感情の障害・意欲の障害・知覚の障害・意識の障害・記憶の障害・局在症状		
	2	精神障害の診断と分類	1. 診断と疾病分類 ・DSMとICD 2. 統合失調症(schizophrenia) ・病型と症状 ・疫学 ・成因 ・治療		
	3	気分(感情)障害 神経症性障害、ストレス関連障害 身体表現性障害	1. 気分障害 ・主要症状 ・経過と予後 ・疫学 ・治療 2. 恐怖症性不安障害 3. 強迫性障害 4. ストレス反応および適応障害 5. 解離性障害 6. 身体表現性障害		
	4	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	1. 摂食障害 2. 睡眠障害 3. 性同一性障害 4. パーソナリティ障害		
	5	器質性精神病 てんかん 精神遅滞、発達障害	1. アルツハイマー型認知症 2. 血管性認知症 3. その他の認知症 4. てんかんの分類・症状 5. 精神遅滞 6. 発達障害		
	6	精神科における治療	1. 薬物療法 2.電気けいれん療法		
	7	精神療法 環境療法 社会療法	①個人療法 ②集団精神療法 ③家族療法 ①環境療法・社会療法の歴史 ②治療共同体の実践 ③社会療法の歴史 ④作業療法 ⑤精神科リハビリテーション		
	8	先天異常・代謝異常疾患の理解	1. 染色体異常 2. 先天性代謝異常症 3. 1型糖尿病		
	9	新生児疾患	1. 分娩損傷 2. 低出生体重児の疾患 3. 成熟疾患		
	10	内分泌・免疫・アレルギー・リウマチ性疾患	1. アレルギー性疾患 1)食物アレルギー 2)気管支喘息 2. 原発性免疫不全症 3. リウマチ性疾患		
	11	感染症	1. ウイルス感染症 1)麻疹 2)風疹 3)水痘 4)手足口病 他 2. 細菌感染症 1)百日ぜき 2)溶血性レンサ球菌感染症 3)細菌性髄膜炎 他 3. 真菌感染症		
	12	呼吸器・循環器疾患	1. 上気道の疾患 1)かぜ症候群 2)急性咽頭炎 他 2. 気管支・肺・胸膜疾患 1)急性気管支炎 他 3. 先天性心疾患 1)アロー四徴 2)心室中隔欠損 4. 川崎病他		
	13	消化器・腎泌尿器疾患	1. 口腔疾患 2. 横隔膜疾患 3. 食道の疾患 4. 糸球体疾患 5. 慢性腎臓病		
	14	血液疾患・悪性新生物	1. 貧血 2. 出血性疾患 3. 好中球の量的質的異常 4. 造血器腫瘍 1)急性リンパ球白血病 他 5. その他の固形腫瘍		
	15	神経・精神・運動器疾患	1.癒合不全症 2. けいれん性疾患 3.神経皮膚症候群 4. 小児の言語障害 5. 筋疾患 6. 先天性股関節脱臼 7. 骨折		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門基礎分野

科目名	リハビリテーション論		指導担当者名	長尾 光祥	
実務経験	病院に勤務し理学療法士として従事している		実務経験	有	
開講時期	2年次・後期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	2時間	
学習目的	機能障害を持った対象の残存機能をいかに身体機能回復のみならず、対象がその人らしい生活を取り戻し維持するための援助方法を学ぶ。				
学習目標	1.リハビリテーションの定義および障害者の定義と動向を理解する。 2.リハビリテーションを必要とする人の特徴を理解する。 3.機能回復訓練の方法を理解する。				
評価方法	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	ナーシンググラフィカ:リハビリテーション看護 メディカ出版				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	リハビリテーションの概念と障害者の定義および対象の特徴と経過	1.リハビリテーションの概念と目的および障害者の定義 2.リハビリテーションを必要とする人の特徴と理解 3.経過別リハビリテーション		
	2	日常生活行動の再獲得を支援する援助技術	1.ADLとセルフケアおよび自立を支える条件 2.日常生活行動の再獲得を促していくプロセス 3.身体機能の維持・回復のための訓練方法		
	3	身体機能の維持・回復のための訓練と実際	1.身体機能の維持・回復のための訓練の実際 1)関節可動域訓練 2)座位体制訓練 3)筋力強化訓練 4)移動と移乗		
	4				
	5	言語聴覚障害および嚥下障害をもつ人のリハビリテーション	1.聴覚障害を持つ人の訓練方法 2.言語障害(構音障害・失語症)をもつ人の訓練方法 3.嚥下障害をもつ人の訓練方法		
	6	言語聴覚機能・嚥下機能訓練	1.聴覚障害を持つ人の訓練の実際 2.言語障害(構音障害・失語症)をもつ人の訓練の実際 3.嚥下障害をもつ人の訓練の実際		
	7				
	8		まとめ	1. リハビリテーションと看護	
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門基礎分野

科目名	現代医療論		指導担当者名	鈴木 邦子	
実務経験	看護師として病院に勤務し看護業務に従事していた			実務経験	有
開講時期	2年次・前期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	2時間	
学習目的	医療をめぐる動向を知るとともに現代における医療の現状とあり方を学び、これからの看護のあり方を考える基礎を学ぶ。				
学習目標	1. 現代医療に不可欠な放射線の効用を理解するとともに、健康に対する影響、その防護についての基本を学ぶ。 2.現代医療におけるさまざまな問題と課題を理解する。 3.医療をめぐる社会の動向と人々の意識変化を理解する。				
評価方法	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	講師作成の資料配付				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項 目	授業内容		
授業計画 前期	1	社会と放射線	1.社会問題と放射線 2.放射線利用		
	2	放射線の種類と特徴	1.放射線の発生機序 2.放射線の特徴		
	3	放射線の生体影響	1.放射線被ばくについて 2.生体への影響機序 3.防護の方法		
	4	医療と医学の語源	1.人類の誕生と医学の関係性 2.現代医療技術の落とし穴		
	5	最近のニュースから医療を考える	1. 脳死と臓器移植 2.インフォームド・コンセントと医療情報の開示 3. 最近のニュースから医療、生命を考える 4. 医療の質を考える		
	6				
	7	保健・医療の新しい潮流	1.21世紀の医療 2.求められる医療者の資質 3.医療におけるケアの視点		
	8	まとめ	GW発表		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門基礎分野

科目名	社会福祉 I		指導担当者名	添田 祐司	
実務経験	社会福祉協議会に勤務し社会福祉士として従事していた			実務経験	有
開講時期	2年次・後期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	2時間	
学習目的	生活問題に対応する社会福祉・社会保障の基礎について学ぶ。				
学習目標	1.社会福祉の基本的理念について理解する。 2.社会保障制度について理解する。 3.社会保険制度について理解する。				
評価方法	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 社会福祉 健康支援と社会保障制度(3) 医学書院				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	社会福祉の基本概念	1.社会福祉の定義と構造 2.社会福祉をとらえる立場 3.社会福祉と看護の関連		
	2	生活問題の特質	1.貧困を起因とする生活問題 2.生活問題の出現過程 3.社会福祉の基本的動向		
	3	社会保障制度	1.社会保障の概念・目的・体系 1) 社会保険・公的扶助・社会福祉 2) 公衆衛生と医療・老人保健		
	4		2.社会保障の内容 1) 所得保障・医療保障・社会福祉サービス 2) 社会保障給付費		
	5	社会福祉制度	1.社会福祉の法制度 2.社会福祉の実施組織と関連法 3.社会福祉の財政		
	6	社会保険制度	1.医療保険制度 2.年金保険制度 3.労働者災害補償保険制度・年金保険制度・介護保険制度		
	7	社会福祉の形成と現状	1.社会福祉の歴史的特質 2.社会福祉の展開・発展 3.現代社会福祉の手法		
	8	まとめ	福祉と看護		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門基礎分野

科目名	社会福祉Ⅱ		指導担当者名	添田 祐司	
実務経験	社会福祉協議会に勤務し社会福祉士として従事していた			実務経験	有
開講時期	3年次・後期		対象学科学年	看護学科 3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	2時間	
学習目的	社会福祉・社会保障の基本的理念と関連し合う職種や機関、制度などの理解を基に、健康医療福祉サービス活動の実際を学ぶ。				
学習目標	1.各分野における社会福祉サービスの実際を理解する。 2.社会福祉の実践に必要な要素を理解する。 3.医療と社会福祉の実践的連携の必要性から、関連する職種や機関の役割と機能を理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 社会福祉 健康支援と社会保障制度(3) 医学書院				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	社会福祉の分野とサービス	1.老人福祉 2.障害者福祉 3.ひとり親家庭の福祉		
	2		4.児童福祉 5.母子保健 6.生活保護制度		
	3		7.その他の福祉 1)低所得対策 2)婦人保護事業		
	4	社会福祉実践の共通基盤	1.社会福祉実践の特質 2.社会福祉実践の展開過程 3.社会福祉実践の検討課題		
	5	社会福祉と医療・看護	1.高齢化社会の医療福祉問題 2.高齢者以外の医療福祉問題 3.医療システムの変化と福祉問題		
	6		4.医療ソーシャルワーク 5.社会福祉と医療・看護の連携と実際 6.病院と地域保健・福祉機関との連携		
	7	社会福祉の歴史と現状	1.社会福祉の歴史的特質 2.社会福祉の歴史的展開・発展 3.欧米モデルの現代的意義		
	8	まとめ	福祉と看護		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅰ

科目名	看護学概論		指導担当者名	鈴木 邦子		
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有	
開講時期	1年次・前期		対象学科学年	看護学科 1年		
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:		
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	6時間		
学習目的	看護の基本概念を学び看護とは何かを明らかにし、看護の対象と看護の位置づけおよび看護の機能と役割の重要性を学ぶ。					
学習目標	1.看護の概念をとらえ、看護の位置づけと役割について理解する。 2.看護における基本概念を学び、看護の対象と健康の意義を理解する。 3.先人の看護理論を学び、看護に対する考えを深める。 4.看護を実践するうえで、自分の価値と他者の価値を倫理的観点からその価値の意味を考察できる。					
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。					
使用教材	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 看護の基本となるもの（日本看護協会出版） 看護覚え書き-本当の看護とそうでない看護（日本看護協会出版）					
授業外学習の方法	ナイチンゲール著「看護覚え書き」の感想レポート提出					
学期	ターム	項目	授業内容			
授業計画 前期	1	基礎看護学の概要	1. 基礎看護学・看護学概論の組み立て 2. 他の科目との関連 3. 授業のすすめ方			
	2	看護師業務 看護における 基本概念 ①看護とは	1. 看護師業務と保健師助産師看護師法			
	3		2. 看護の本質 1) 看護の変遷 2) 看護の定義			
	4		2) 看護の定義 ①ナイチンゲール			
	5		②ヘンダーソン ③ウィーデンバック			
	6		④トラベルビー ⑤ペプロウ ⑥オレム ⑦ロイ			
	7		3) 看護の役割と機能 4) 看護の継続性と情報共有 5) 観察・記録・報告			
	8		看護における基本概念 ②人間とは	1. 人間とは 2. こころとからだ		
	9			3. 人間の成長発達の概要 ①身体的 ②心理・社会的 4. 人間の「暮らし」の理解		
	10		1. 健康とは 2. 健康の定義			
	11		看護における基本概念 ③健康とは ④環境とは	1. 人々の生活と健康に関する統計 2. 環境概念 3. 4大概念のまとめ		
	12			1. 日本における職業としての看護 2. 看護職の養成制度と就業状況 3. 看護職者の教育とキャリア開発		
	13		看護倫理	1. 倫理とは 2. 看護倫理とは 3. 看護者の倫理綱領 4. 倫理の原則 5. 患者の権利		
	14	看護提供のしくみ	1. 医療従事者・チーム医療 2. 看護サービス提供の場と看護			
	15		3. 診療報酬と看護			
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。						

専門分野Ⅰ

科目名	基礎看護学方法論Ⅰ		指導担当者名	佐久間 真樹	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	1年次・前期		対象学科学年	看護学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	看護活動の場でさまざまな発達段階や健康段階にある人々への看護援助に共通する基礎的技術と日常生活行動の援助技術および診療の補助技術を学び、科学的根拠に基づき実践できる基礎的能力を習得する。				
学習目標	1.医療における安全と安楽の意義と安全を保証する方法・安楽を確保する方法を理解する。 2.人間にとっての姿勢・活動を整える意義と方法を理解し、姿勢・活動の援助技術を習得する。 3.睡眠・休息の意義と生理学的メカニズムおよび必要な援助方法を理解する。 4.人間にとっての環境の意味を理解し、療養生活における環境調整の援助方法を習得する。				
評価方法	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院				
授業外学習の方法	看護技術の自主演習				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	安全・安楽	1.安全を保証することの重要性和安全を保証する技術 2.医療事故と医療過誤とその予防策 3.安楽の意義と安楽を確保する方法		
	2	姿勢と体位	1.姿勢を保つこと・身体を動かすことの意義 2.体位の種類と特徴および体位の安楽性 3.ボディメカニクス		
	3	体位変換と移動	1.体位変換と援助の必要性和その方法 2.移動援助の方法 1)人の身体の動かし方 2)寝返り・起き上がり動作		
	4	移動・移送	1.移乗援助の方法 2.移送援助方法 1)車椅子 2)ストレッチャー 3)担架		
	5	体位変換と移送の援助の実際	1.体位変換の実際 1)水平移動 2)仰臥位～側臥位 3)仰臥位～座位		
	6		2.車椅子への移動・移送の実際 3.ストレッチャーへの移動・移送方法 4.担架への移動・移送方法		
	7	休息・睡眠	1.休息・睡眠の意義と生理学的メカニズム 2.睡眠障害のアセスメント 3.睡眠・休息の援助方法		
	8	環境	1.環境とは 2.環境整備の意義		
	9	療養環境の整備	1.療養生活の環境 2.病室の環境調整 3.病床の環境調整		
	10	環境調整の実際	1.ベッドメイキング演習		
	11		1.ベッドメイキング演習		
	12	環境調整の技術	2.臥床患者のシーツ交換の方法 3.臥床患者のシーツ交換演習		
	13				
	14	苦痛の緩和・安楽確保の技術	1.体位保持(ポジショニング) 2.褥瘡法		
	15		1.身体ケアを通じてもたらされる安楽		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅰ

科目名	基礎看護学方法論Ⅱ		指導担当者名	柳沼 るみ子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	1年次・前期		対象学科学年	看護学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	看護活動の場でさまざまな発達段階や健康段階にある人々への看護援助に共通する基礎的技術と日常生活行動の援助技術および診療の補助技術を学び、科学的根拠に基づき実践できる基礎的能力を習得する。				
学習目標	1.衣生活援助の基礎知識を理解し、病衣・寝衣交換の方法を習得する。 2.清潔保持に関する生理的メカニズムを理解と共に援助方法を習得する。 3.創傷の治癒過程を知り、治癒過程および褥瘡予防の援助について学ぶ。				
評価方法 評価基準	筆記・実技試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院				
授業外学習の方法	看護技術の自主演習				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	清潔の援助	1.清潔の意義 1)生理的・心理的・社会的な意味 2.清潔援助の実際		
	2		3.病床での衣生活の援助 1)援助の基礎知識 2)援助の実際		
	3	入浴および全身清拭	1.入浴が身体に及ぼす影響と入浴の援助方法 2.全身清拭の意義と目的 3.全身清拭の方法		
	4	衣生活	1.衣服を用いることの意義 2.被服気候と病衣の選び方 3.病衣・寝衣交換の方法		
	5	手浴・足浴・陰部洗浄	1.手浴・足浴の目的と方法 2.陰部洗浄の目的と方法		
	6		1.手浴・足浴の実際		
	7	床上援助の実際	1.全身清拭と寝衣交換の実際		
	8				
	9	洗髪の援助	1.洗髪の意義と目的 2.洗髪ニーズのアセスメントと洗髪の援助方法の選択 3.洗髪台による洗髪の実際		
	10	洗髪援助の実際	1.洗髪車による洗髪の実際		
	11				
	12	口腔ケア	1.口腔ケアの意義と目的 2.口腔ケアの種類と方法		
	13		1.口腔ケアの実際		
	14	創傷管理技術	1.創傷管理の基礎知識 2.創傷処置		
	15		1.褥瘡予防		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅰ

科目名	基礎看護学方法論Ⅲ		指導担当者名	小砂子 直美	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	1年次・後期		対象学科学年	看護学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	看護活動の場でさまざまな発達段階や健康段階にある人々への看護援助に共通する基礎的技術と日常生活行動の援助技術および診療の補助技術を学び、科学的根拠に基づき実践できる基礎的能力を習得する。				
学習目標	1.食事の意義と食事に関する生理学的メカニズムを理解する。 2.食事に関する援助方法を理解する。 3.排泄の意義と排泄に関する生理学的メカニズムを理解する。 4.排泄に関する援助方法を習得する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院				
授業外学習の方法	看護技術の自主演習				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	食事の基礎知識	1.食事の意義 1)生理的・心理的・社会的な意味 2.食事のニーズのアセスメントと食事の援助方法の選択		
	2	食事に関する援助方法	1.食事援助が必要な人の援助方法 1)咀嚼・嚥下障害 2)視覚障害 3)運動障害 4)体位・体動制限 5)アセスメント		
	3	食事援助の実際	1.食事援助が必要な人の援助方法の実際 1)視覚障害 2)運動障害		
	4		3)体位・体動制限		
	5	経管栄養の援助方法	1.経管栄養の適応と管理 1)副作用と対策 2)経腸栄養剤の種類 2.経管栄養の援助の方法 3.高カロリー輸液		
	6	経管栄養の援助の実際	1.経鼻カテーテル挿入の実際(モデル人形)		
	7				
	8	排泄の基礎知識	1.排尿・排便の意義 1)排尿・排便の解剖生理学的メカニズム 2.排泄のニーズのアセスメントと排泄障害の種類		
	9	排尿・排便の援助方法	1.床上での排尿・排便の援助 1)アセスメント 2.おむつを用いた援助、トイレでの援助		
	10		3.自然排尿・排便を促す方法		
	11	排便・排尿の援助の 実際	1.尿器を用いての床上排泄援助の実際 2.便器を用いての床上排泄援助の実際 3.おむつの援助の実際		
	12				
	13	排泄障害における援助	1.導尿の方法 2.浣腸の種類と方法および留意点		
	14	導尿・浣腸の援助の 実際	1.導尿の援助の実際		
	15		2.グリセリン浣腸の援助の実際		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅰ

科目名	基礎看護学方法論Ⅳ		指導担当者名	柳沼 るみ子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	2年次・後期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	さまざまな発達段階や健康段階にある人々への看護援助に共通する基礎的技術と術と日常生活行動の援助技術および診療の補助技術を学び、科学的根拠に基づき実践できる基礎的能力を習得する。				
学習目標	1.薬物療法の意義・目的および看護の役割を理解する。 2.与薬を受ける患者に必要な援助の方法を習得する。 3.救急救命処置の中の一部援助が理解できる。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院				
授業外学習の方法	看護技術の自主演習				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	与薬の基礎知識	1.薬物の基本的性質 2.看護師の役割		
	2	経口与薬と口腔内与薬	1.援助の基礎知識 2. 援助の実際		
	3	吸入	1.援助の基礎知識 2. 援助の実際		
	4	点眼・点鼻・経皮的与薬 直腸内与薬	1.援助の基礎知識 2. 援助の実際		
	5	注射法	1.注射の基礎知識 1) 技術の概要 2) 注射の方法と種類 3) 注射筒と注射針について 4) 実施上の責任 5) 注射の準備		
	6				
	7	注射の実施法	1.皮下注射 1)目的・適応 2)注射部位の選択 3)実施前の評価、必要物品、説明、実施方法		
	8		2.皮内注射 1)目的・適応 2)注射部位の選択 3)実施前の評価、必要物品、説明、実施方法		
	9		3.筋肉注射 1)目的・適応 2)注射部位の選択 3)実施前の評価、必要物品、説明、実施方法		
	10		4.静脈内注射 1)目的・適応 2)注射部位の選択 3)実施前の評価、必要物品、説明、実施方法		
	11	注射の実際	1.アンプル、バイアル、シリンジと取扱い 2.皮下注射 3.皮内注射 4.筋肉注射 5.静脈内注射		
	12				
	13	救命救急処置の 基礎知識	1.救急救命の基礎知識 1)救急対応の考え方 2)急変時における初期対応		
	14		2.胃洗浄		
	15		3.院内急変の対応		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅰ

科目名	基礎看護学方法論Ⅴ		指導担当者名	柳沼るみ子
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり		実務経験	有
開講時期	1年次・前期～後期		対象学科学年	看護学科 1年
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間
学習目的	看護活動の場でさまざまな発達段階や健康段階にある人々への看護援助に共通する基礎的技術と日常生活行動の援助技術および診療の補助技術を学び、科学的根拠に基づき実践できる基礎的能力を習得する。			
学習目標	1.検査・治療の意義及び検査・治療における看護師の役割を理解する。 2.感染予防の意義を理解し、感染予防のための援助を習得する。 3.起こりうる医療事故を防ぎ患者の安全を確保する方法を学ぶ。 4.危篤・終末期における援助方法について理解する。			
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。			
使用教材	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院			
授業外学習の方法	看護技術の自主演習			
学期	ターム	項目	授業内容	
授業計画 前期・後期	1	診察・検査・処置の 介助技術	1. 診察の介助	
	2		2. 検査・処置の介助 1)X線撮影 2)コンピューター断層撮影 3)磁気共鳴画像 4)内視鏡検査 5)超音波検査 6)肺機能検査 7)核医学検査 8)穿刺	
	3			
	4			
	5	感染防止の技術	1. 感染予防の基礎知識	
	6		2. 標準予防策 1)標準予防策の基礎知識 2)対策の実際 ①手指衛生 ～	
	7		3. 感染経路別予防策 1)感染経路別予防策の基礎知識 他	
	8		4. 洗浄・消毒・滅菌 5. 無菌操作	
	9	安全確保の技術	6. 感染性廃棄物の取り扱い 7. カテーテル関連血液感染対策 8. 針刺し対策	
	10		1. 安全確保の基礎知識 2. 誤認防止 3. チューブ類の予定外抜去方法	
	11		4. 患者誤認防止 5. 転倒・転落防止	
	12		6. 感染性廃棄物の取り扱い 7. 薬剤・放射線暴露の防止	
	13	死の看取りの援助	1. 志望の動向と場所 2. 死ぬゆく人と周囲の人々へのケア	
	14		3. わが国の風習に根づく死後の処置のあり方	
	15		4. 死後の処置	
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。				

専門分野Ⅰ					
科目名	基礎看護学方法論Ⅵ		指導担当者名	佐久間 真樹	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	1年次・前期		対象学科学年	看護学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	看護活動の場でさまざまな発達段階や健康段階にある人々への看護援助に共通する基礎的技術と日常生活行動の援助技術および診療の補助技術を学び、科学的根拠に基づき実践できる基礎的能力を習得する。				
学習目標	1. バイタルサインの目的および観察内容を理解し、正確な測定方法を習得する。 2. 呼吸・循環を整えるための目的と方法を理解し、それぞれの援助を学ぶ。 3. 患者をアセスメントする方法である、症状・生体機能管理技術について学習する。				
評価方法	筆記・実技試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②・Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院				
授業外学習の方法	看護技術の自主演習				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	バイタルサインの観察とアセスメント	1. バイタルサインの意義		
	2	バイタルサイン測定の実際	バイタルサインの実際(1)		
	3		2. 体温 1) 体温維持に関する基礎知識 2) 体温測定の実際		
	4		3. 脈拍 1) 脈拍に関する基礎知識 2) 脈拍測定の実際		
	5		4. 呼吸 1) 呼吸に関する基礎知識 2) 呼吸測定の実際		
	6		5. 血圧 1) 血圧に関する基礎知識 2) 血圧測定の実際		
	7		6. 意識 1) 意識に関する基礎知識 2) 意識の観察の実際		
	8	呼吸・循環を整える技術	1. 酸素吸入療法(酸素療法) 1) 援助の基本知識 2) 援助の実際		
	9		2. 排痰ケア 1) 排痰ケアの基礎知識 2) 援助の実際		
	10		3. 持続吸引 4. 吸入 5. 人工呼吸療法		
	11	バイタルサイン測定の実際	バイタルサイン測定の実際 1) 意識 2) 体温 3) 脈拍 4) 呼吸 5) 血圧		
	12				
	13	生体機能管理技術	1. 症状・生体機能管理技術の基礎知識		
	14		2. 検体検査 1) 血液検査 2) 尿検査 3) 便検査 4) 喀痰検査		
	15		3. 生体情報のモニタリング 1)心電図検査 3)SpO ₂ モニター 2)心電図モニター 4)血管留置カテーテルモニタリング		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野

科目名	地域・在宅看護論概論Ⅰ		指導担当者名	渡邊真美	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
学年・時期	1年次・後期		対象学科学年	看護学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	4時間	
学習目的	看護の対象となる地域の人々の暮らしを理解するとともに、病気がその人と家族の日常生活に与える影響を理解し、その人らしく生活するための地域における支援体制を理解することができる。				
学習目標	1.看護の対象となる地域の人々の暮らしが理解できる。 2.病気がその人と家族の日常生活に与える影響が理解できる。 3.その人らしく生活するための地域における支援体制を理解できる。				
評価方法 評価基準	筆記試験				
使用教材	医学書院 在宅看護論 資料配布				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	人々の暮らしの理解	1. 地域・在宅看護論を学ぶ目的 2. 暮らすということの意味 3. 生活者という視点 4.在宅看護の社会的背景		
	2	地域環境と健康	1. 地域の自然環境 2. 地域の社会環境 3. 地域の文化環境		
	3		地域探索演習(グループワーク)		
	4	病気による社会生活への影響	1. 病や老いとともに生きるとは 2. 「家族が病気になったら」を事例を通して考えよう		
	5	暮らしと健康を支える社会資源	1. 地域包括ケアシステムの意義 2. 自助・互助・共助・公助の意義と役割 3. 家族を支える看護		
	6				
	7	地域における多職種の連携	1. 地域での暮らしを支える多職種 2. 多職種と看護師の連携 3. 健康と暮らしを支える看護の役割 4. 事例を通して地域における多職種連携を考える		
	8				
			評価		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる					

専門分野

科目名	地域・在宅看護論概論Ⅱ		指導担当者名	円谷 京子	
実務経験	看護師として訪問看護ステーションに従事している			実務経験	有
学年・時期	1年次・後期		対象学科学年	看護学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	4時間	
学習目的	看護の対象となる地域の人々の暮らしを理解するとともに、病気がその人と家族の日常生活に与える影響を理解し、その人らしく生活するための地域における支援体制を理解することができる。				
学習目標	1.看護の対象となる地域の人々の暮らしが理解できる。 2.病気がその人と家族の日常生活に与える影響を理解できる。 3.その人らしく生活するための地域における支援体制を理解できる。				
評価方法 評価基準	筆記試験				
使用教材	医学書院 在宅看護論 資料配布				
授業外学習 の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	人々の暮らしの理解	1. 地域・在宅看護論を学ぶ目的 2. 暮らすということの意味 3. 生活者という視点 4.在宅看護の社会的背景		
	2	地域環境と健康	1. 地域の自然環境 2. 地域の社会環境 3. 地域の文化環境		
	3		地域探索演習(グループワーク)		
	4	病気による社会生活への影響	1. 病や老いとともに生きるとは 2. 「家族が病気になったら」を事例を通して考えよう		
	5	暮らしと健康を支える社会資源	1. 地域包括ケアシステムの意義 2. 自助・互助・共助・公助の意義と役割 3. 家族を支える看護		
	6				
	7	地域における多職種の連携	1. 地域での暮らしを支える多職種 2. 多職種と看護師の連携 3. 健康と暮らしを支える看護の役割 4. 事例を通して地域における多職種連携を考える		
	8		評価		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる					

専門分野Ⅰ

科目名		ヘルスアセスメント		指導担当者名		國分 三起子			
実務経験		看護師として病院勤務の経験あり				実務経験		有	
開講時期		1年次・後期			対象学科学年		看護学科 1年		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:	
単位・時間数		1単位・30時間			週時間数		4時間		
学習目的		看護過程の一領域であり、人間を身体・心理・社会的存在としてとらえる重要性を認識させ、対象者の健康問題を把握し、適切な看護を提供するために的確なアセスメントテクニックを身につける基礎的能力を習得する。							
学習目標		1.フィジカルアセスメントの必要性和そのテクニックを理解し、対象のアセスメントができる能力を身につける。 2.科学的思考、問題解決的思考を基に看護過程の展開を身につける。							
評価方法 評価基準		筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。							
使用教材		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院							
授業外学習の方法		看護技術の自主演習							
学期	ターム	項目		授業内容					
授業計画 後期	1	フィジカルアセスメントとは		1. ヘルスアセスメントが持つ意味					
	2	健康歴とセルフケアのアセスメント		1. 問診の技術 2. セルフケア能力のアセスメントの実際 3. 情報の整理					
	3	全体のアセスメント		1. フィジカルアセスメントに必要な技術 2、全身状態・全身印象の把握 3. 計測					
	4	系統的フィジカルアセスメント		1. ケアにつながるフィジカルアセスメント					
	2. 呼吸器のフィジカルアセスメント								
	3. 循環器のフィジカルアセスメント								
	4. 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント								
	5			5. 腹部のフィジカルアセスメント					
	6			6. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント					
				7. 神経系のフィジカルアセスメント					
				8. 頸頭部と感覚器のフィジカルアセスメント					
	7	看護過程展開の技術		1. 看護過程とは 2. 看護過程を展開する際基盤となる考え方					
	8	看護過程の各段階		1. アセスメント 1)情報収集 2)情報収集の方法 他					
	2. 看護問題の明確化 1)看護問題の見極め 2)看護問題の種類 3)看護計画								
	9								
10	4)実施								
11			5)評価						
12	看護過程展開の実際		1. 事例展開 1)アセスメント 健康認識・管理						
食事・排泄 活動・運動 睡眠・休息									
13			認知・知覚 価値・信念 ・・・等々						
14									
15	看護記録		1. 看護記録とは 2. 記載・管理 3. 看護記録の構成						
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。									

専門分野Ⅰ

科目名	臨床看護総論		指導担当者名	柳沼 るみ子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	1年次・後期		対象学科学年	看護学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	基礎看護学を基盤に、入院・退院時の看護を中心に、臨床の場における看護師の役割について認識を深め、健康水準に応じた看護援助の必要性を理解する。				
学習目標	1.疾病における経過を理解し、それぞれの経過に応じた看護の方法を理解する。 2.主要症状のメカニズムと主要症状を示す患者の看護の方法を理解する。 3.治療・処置を受けている患者の看護の方法を理解する。				
評価方法	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	1. ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ		
	2	健康状態の経過に基づく看護	1、健康の維持・増進を目指す看護		
	3		2. 急性期における看護 3. 慢性期における看護 4. 終末期における看護		
	4	主要な症状を示す対象者への看護	1. 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護		
	5		2. 循環に関連する症状を示す対象者への看護		
	6		3. 栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護		
	7		4. 排泄に関連する症状を示す対象者への看護		
	8		5. 活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護		
	9		6. 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護		
	10	治療・処置を受けている患者の看護	7. コーピングに関連する症状を示す対象者への看護		
	11		8. 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護		
	12		9. 安全に関連する症状を示す対象者への看護		
	13		1. 輸液療法を受ける対象者への看護		
	14		2. 化学療法を受ける対象者への看護		
	15		3. 放射線療法を受ける対象者への看護		
		事例による看護実践の展開	4. 手術療法を受ける対象者への看護		
			5. 集中治療を受ける対象者への看護		
			1. 事例展開		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅰ

科目名	看護倫理		指導担当者名	鈴木 邦子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	3年次・後期		対象学科学年	看護学科 3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	4時間	
学習目的	倫理学の基礎的知識を基に、臨床で遭遇する看護倫理問題を自分自身の問題としてとらえ、倫理的分析が出来る能力を高める。				
学習目標	1. 看護倫理の原則・患者の権利が理解できる。 2. 看護倫理のジレンマとジレンマ分析方法について理解できる。 3. 事例を通して倫理的意思決定モデルを使い分析できる。				
評価方法	課題レポート・筆記試験				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	別巻 看護倫理 医学書院				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	看護倫理を学ぶために倫理学の基本的な考え方	1. なぜ倫理学を学ぶのか 2. 倫理とは何か 3. 倫理理論		
	2	生命倫理	1. 生命倫理とは何か 2. 生命倫理の原則、規則 3. インフォームドコンセント 4. 守秘義務・個人情報保護		
	3	生殖の生命倫理・死の生命倫理	1. 優生思想 2. 人工妊娠中絶 3. 出生前診断 1. 死の準備教育 2. 終末期ケア 3. 安楽死・尊厳死 4. 脳死・移植医療		
	4	先端医療と制度をめぐる生命倫理	1. 遺伝子診断・治療		
	5	看護倫理とは何か	1. 看護倫理を学ぶ意義 2. 看護の倫理原則 3. 看護実践上の倫理的概念		
	6	専門職の倫理	1. 社会からみた看護 2. 専門職に求められる倫理 3. 専門職の倫理綱領		
	7	倫理的問題へのアプローチ	1. 看護倫理における倫理的問題の特徴 2. 倫理的問題へのアプローチ		
	8	事例分析	倫理的判断		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅰ

科目名	看護研究の基礎		指導担当者名	鈴木 邦子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	3年次 前期		対象学科学年	看護学科 3年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位30時間		週時間数		
学習目的	専門領域での実数の学びをまとめ発表することで、卒後臨床における看護研究の一助とするとともに自己の看護観を築き、常に看護を探究する姿勢を身につける。				
学習目標	1. ケースレポートを作成する能力を身につける。 2. 抄録を作成する能力を身につける。 3. ケースレポートを発表する能力を身につける。				
評価方法	ケース・スタディレポートの作成・発表				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	看護学生のためのケーススタディ:メディカルフレンド社 第3版				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	看護研究の必要性和意義	1. 研究を行うにあたって 2. 目的、留意点		
	2	レポートの進め方	1. ケーススタディについて		
	3		2. ケースレポートの作成方法、構成		
	4	研究計画書について	1. 研究計画書の作成 2. 各項目について		
	5	研究計画書の作成	1. 研究計画書の作成の実際 2. 作成の留意点 1)全体構成 2)考察のまとめ方 3)さまざまな約束事		
	6	ケーススタディのまとめ方	1. 研究を行ううえでの倫理的配慮と倫理的問題 2. 作成の留意点		
	7	抄録及びプレゼンテーションについて	1. 抄録作成について 2. 作成の留意点		
	8	発表会への準備	1. 作成に向けて各個人の取り組み		
	9	発表会への準備	1. 作成に向けて各個人の取り組み		
	10	発表会への準備	1. プレゼンテーション確認		
	11	発表会への準備	1. リハーサル 2. 資料作成と準備		
	12	研究発表会	研究発表会・評価		
	13				
	14				
	15				

履修上の留意点		対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。	
---------	--	--	--

専門分野Ⅱ

科目名	成人看護学概論		指導担当者名	國分 三起子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	1年次・後期		対象学科学年	看護学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	成人の成長発達の特徴と役割およびライフスタイルがもたらす健康障害を理解し、成人を看護するうえでの基本的なアプローチを学習する。				
学習目標	1.成人の成長発達の特徴と身体機能の特徴を理解する。 2.成人各期の健康問題と成人期にみられる健康障害を理解する。 3.成人の健康生活に対応した看護を理解する。 4.成人を看護するうえで基本的なアプローチの方法を理解する。				
評価方法	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 ①成人看護学総論 医学書院				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	成人期にある人の理解	1.成長発達の特徴 1)成長と発達 2)発達課題		
	2	成人各期の特徴	2.青年期の特徴 1)身体的な特徴 2)心理・社会的特徴 3)セクシャリティとジェンダー		
	3		3.壮年期・中年期の特徴 1)身体的な発達 2)生殖性の発揮 3)向老期の特徴		
	4				
	5	生活と健康	1. 大人の生活状況の特徴 2. 大人の健康状況の特徴 3. 保健・医療・福祉システムの概要と連携		
	6	生活と健康	4. ヘルスプロモーションと看護 5. ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動		
	7	成人看護へのアプローチの基本	1. 生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 2. 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 3. チームアプローチ		
	8		4. 看護実践における倫理的判断 5. 意思決定支援 6. 家族支援		
	9	急激な健康破綻をきたした人の看護	1. 健康の急激な破綻とは 2. 危機にある人々への支援		
	10	健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護	1. 病みの軌跡 2. 自己効力 3. エンパワメント		
	11	健康を脅かす要因と看護	1. 健康バランスと構成要素 2. ストレスと健康生活 3. ライフイベントと健康問題		
	12		4. 生活行動がもたらす健康問題とその予防		
	13		1. エンパワメント・エデュケーション 2. セルフマネジメントを推進する看護技術 3. 患者の認知に働きかける看護技術		
	14	4. 事例展開、発表			
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	成人看護学方法論Ⅰ		指導担当者名	國分 三起子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	1年次・後期		対象学科学年	看護学科 1年	
授業方法	講義:		演習:	実習:	実技:
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	成人期にある対象を総合的に理解し、健康の保持増進および健康障害・機能障害時における看護が実践できるための知識・技術・態度を学習する。				
学習目標	1. 呼吸機能障害を持つ患者の看護を理解する。 2. 循環機能障害を持つ患者の看護を理解する。 3. 自己管理や自宅療養へ向けた看護について理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 ②呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 ③循環器 医学書院				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	呼吸機能障害を持つ患者の看護	1. 看護を学ぶにあたって 1) 医療の動向と看護 2) 患者の特徴 3) 看護の役割 4) 疾患の経過と看護		
	2		2. 症状のある患者の看護 1) 咳嗽・喀痰のある患者 2) 血痰・喀痰のある患者 3) 胸痛のある患者 4) 呼吸困難のある患者		
	3		3. 検査・治療・処置を受ける患者の看護 1) 内視鏡検査 2) 肺組織の生検 3) 吸入療法 4) 酸素療法 5) 気管切開 6) 胸腔ドレナージ		
	4		4. 疾患をもつ患者の看護 1) 肺炎患者の看護		
	5		2) 結核患者の看護 3) 気管支喘息患者の看護		
	6		4) 慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者の看護		
	7		5) 肺がん患者の看護 6) 自然気胸患者の看護		
	8	循環機能障害をもつ患者の看護	1. 循環機能障害をもつ患者の特徴および疾患の経過と看護 2. 症状に対する看護 1)胸痛 2)動悸 3)浮腫 4)呼吸困難 5)チアノーゼ		
	9				
	10		3. 検査と治療・処置を受ける患者の看護 1) 心臓カテーテル 2) 心電図 3) 運動負荷試験 4) 血行動態モニタリング 5) 動脈血ガス分析		
	11		4. 治療・処置を受ける患者の看護 1) 手術を受ける患者の看護		
	12		5. 疾患をもつ患者の看護 1)虚血性心疾患の看護 狭心症患者の看護		
	13		2)心不全患者の看護 右心不全の患者の看護 左心不全の患者の看護		
	14		3)高血圧患者の看護 4)不整脈(ペースメーカー)患者の看護 5)動脈系疾患患者の看護		
	15		6.心臓リハビリテーションと看護 事例の展開 心筋梗塞患者の看護		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	成人看護学方法論Ⅱ		指導担当者名	天野 邦子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	1年次・後期		対象学科学年	看護学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	成人期にある対象を総合的に理解し、健康の保持増進および健康障害・機能障害時における看護が実践できるための知識・技術・態度を学習する。				
学習目標	1.運動機能障害をもつ患者の看護を理解する。 2.消化・吸収・排泄機能障害をもつ患者の看護を理解する。 3.自己管理や自宅療養へ向けた看護について理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤消化器 医学書院				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授 業 計 画 後 期	1	運動機能障害をもつ患者の看護	1.運動機能障害をもつ患者の特徴および疾患の経過と看護 2.骨折時の看護 1)ギブス固定 2)牽引を受ける患者の看護		
	2		3.症状に対する看護 1)神経麻痺(神経障害) 2)循環障害 3)疼痛 4)出血		
	3		4.手術を受ける患者の看護 1)手術前の看護 2)手術後の看護 3)手・脊椎・膝関節・四肢切断		
	4		5.経過に応じた患者の看護 1)急性期 2)回復期 3)慢性期 4)終末期		
	5		6.疾患をもつ患者の看護 1)大腿骨頸部骨折患者の看護		
	6		2)椎間板ヘルニア患者の看護		
	7		3)脊髄損傷患者の看護		
	8	消化・吸収・排泄機能障害をもつ患者の看護	1.消化・吸収・排泄機能障害をもつ患者の特徴および疾患の経過と看護 2.症状に対する看護 1)嚥下困難 2)胸やけ 3)嘔気・嘔吐 4)腹痛 5)吐血・下血 6)下痢・便秘 7)腹部膨満 8)腹水 9)黄疸 10)肝性脳症		
	9		3.検査と治療・処置を受ける患者の看護 1)内視鏡検査 2)放射線検査		
	10		4.疾患をもつ患者の看護 1)食道がん患者の看護 2)胃・十二指腸潰瘍患者の看護 3)胃がん患者の看護 ・手術前看護 ・術後看護(栄養管理)		
	11		4)イレウスで保存的治療を受ける患者の看護 5)胆嚢・胆道の手術を受ける患者の看護(内視鏡下手術)		
	12		6)肝硬変患者・肝がん患者の看護 7)膵臓疾患患者の看護		
	13		8)大腸がん患者の看護 9)ストーマ造設術をうける患者の看護		
	14				
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	成人看護学方法論Ⅲ		指導担当者名	佐久間 真樹	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	1年次・後期		対象学科学年	看護学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	成人期にある対象を総合的に理解し、健康の保持増進および健康障害・機能障害時における看護が実践できるための知識・技術・態度を学習する。				
学習目標	1.血液・造血機能障害・免疫機能障害をもつ患者と感染症の看護を理解する。 2.アレルギー障害をもつ患者の看護を理解する。 3.感覚器機能障害をもつ患者の看護を理解する。 4.自己管理や自宅療養へ向けた看護について理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学④血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑪アレルギー・膠原病 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑫皮膚 ⑬眼 ⑭耳鼻咽喉 ⑮歯・口腔 医学書院				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	血液・造血機能障害をもつ患者の看護	1.血液・造血機能障害をもつ患者の特徴および疾患の経過と看護 2.主要症状のある患者の看護 1)貧血 2)出血傾向 3)白血球減少		
	2		3. 検査を受ける患者の看護		
	3		4.造血器腫瘍患者の看護 1)白血病患者の看護 ①急性骨髄性白血病の看護 ②急性リンパ性白血病		
	4		③慢性骨髄性白血病 2)悪性リンパ腫患者の看護		
	5		3)造血幹細胞移植を受ける患者の看護		
	6	膠原病をもつ患者の看護	1.膠原病・感染症をもつ患者の特徴および疾患の経過と看護 2.症状を示す患者の看護 1)発熱 2)関節症状 3)皮膚・粘膜症状 他		
	7		3.膠原病をもつ患者の看護 1)関節リウマチ 2)全身性エリテマトーデス患者の看護		
	8		1.感染予防 2.症状に対する看護 1)発熱		
	9	感染症をもつ患者の看護	2)発疹 3)下痢		
	10		3.感染症の疾患をもつ患者の看護 1)HIV感染症・エイズ患者の看護		
	11		2)MRSA感染症患者の看護		
	12	感覚機能障害をもつ患者の看護	1. 皮膚疾患の患者の看護 (アトピー・熱傷)		
	13		2. 眼疾患の患者の看護 (網膜剥離・緑内障・白内障)		
	14		3.耳鼻咽喉疾患の患者の看護 (メニエール病・副鼻腔炎)		
	15		4. 口腔・咽喉疾患の患者の看護 (舌癌)		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	成人看護学方法論Ⅳ		指導担当者名	葛岡 幸子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	2年次・後期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	2時間	
学習目的	成人期にある対象を総合的に理解し、健康の保持増進および健康障害・機能障害時における看護が実践できるための知識・技術・態度を学習する。				
学習目標	1.内分泌・代謝機能障害をもつ患者の看護を理解する。 2.脳・脳神経機能障害をもつ患者の看護を理解する。 3.自己管理や自宅療養へ向けた看護について理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 ⑥内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 ⑦脳・神経 医学書院				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	内分泌・代謝機能障害をもつ患者の看護	1.内分泌・代謝機能障害をもつ患者の特徴および疾患の経過と看護 2.検査時の看護 1)ホルモンの血中濃度測定 2)負荷試験		
	2		3.内分泌疾患をもつ患者の看護 1)バセドウ病患者の看護 2)甲状腺切除を受ける患者の看護		
	3		4.代謝疾患患者の看護 1)糖尿病患者の看護 ・糖尿病患者の特徴		
	4		・糖尿病における健康教育 ・インスリン療法 ・自己血糖測定器の実際		
	5		2)高脂血症 3)肥満患者の看護 4)痛風患者の看護		
	6	脳・脳神経機能障害をもつ患者の看護	1. 症状に関する看護 1)意識障害 2)運動失調・不随意運動 3)言語障害 4)運動麻痺 5)けいれん 6)頭蓋内圧亢進症状		
	7		2. 脳出血の患者の看護 1)意識障害のある患者の看護 2)頭蓋内圧亢進症状のある患者の看護		
	8		3.脳梗塞の患者の看護 1)急性期 ①脳血管撮影を行う患者の看護		
	9		2)回復期 ①言語障害のある患者の看護 ②運動麻痺のある患者の看護		
	10		4. パーキンソン病の患者の看護 1)運動麻痺・不随意運動のある患者の看護		
	11		5. 筋委縮性側索硬化症患者の看護 6. 筋ジストロフィー患者の看護		
	12		7. 髄膜炎の患者の看護 1)腰椎穿刺時の患者の看護 8. 脳腫瘍の患者の看護		
	13		9. クモ膜下出血の患者の看護 1)手術を受ける患者の看護 2)脳血管攣縮の予防の看護		
	14		10. 下垂体腺腫の患者の看護 1)経蝶形骨洞下垂体腫瘍摘出術を受ける患者の看護 2)尿崩症の患者の看護		
	15		11. 頭部外傷の患者の看護 12. 慢性硬膜下血腫の患者の看護		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	成人看護学方法論Ⅴ		指導担当者名	千葉 志保	
実務経験	助産師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	2年次・後期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	成人期にある対象を総合的に理解し、健康の保持増進および健康障害・機能障害時における看護が実践できるための知識・技術・態度を学習する。				
学習目標	1.腎機能障害をもつ患者の看護を理解する。 2.女性生殖器機能障害をもつ患者の看護を理解する。 3.乳房機能障害をもつ患者の看護を理解する。 4.緩和ケアについて理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑧腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑨女性生殖器 医学書院				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	腎機能障害・排尿障害をもつ患者の看護	1.腎機能障害・排尿障害をもつ患者の特徴および疾患の経過と看護 2.症状に対する看護 1)尿失禁 2)排尿困難・残尿感・尿閉 3)浮腫 4)腎性高血圧 5)尿毒症 3.検査時の看護 1)フィッシュバーグ濃縮試験 2)血液検査 3)X線検査 4)内視鏡検査 5)生検		
	2		4.疾患をもつ患者の看護 1)ネフローゼ症候群患者の看護 2)腎盂腎炎・膀胱炎患者の看護		
	3		3)腎不全患者の看護 4)腎移植を受ける患者の看護		
	4		5.治療・処置を受ける患者の看護 1)透析療法(血液透析、腹膜透析) 2)導尿・膀胱洗浄		
	5		1.女性生殖機能障害をもつ患者の特徴および疾患の経過と看護 2.外来・病棟における看護 3.症状と病態における看護		
	6		4.臓器別疾患・機能別疾患患者の看護 1)外陰部疾患 2)膣疾患 3)子宮疾患 4)不妊症・不育症		
	7	女性生殖機能障害をもつ患者の看護	5.治療・処置別看護 1)手術 2)化学療法 3)ホルモン療法 4)体外受精		
	8		1.乳房の手術を受ける患者の看護 1)手術前の看護 2)手術後の看護		
	9		1.緩和ケアの歴史と現状 2.チーム医療 1)チーム医療の必要性和役割		
	10		3.緩和ケアにおける倫理的課題 1)倫理・生命倫理 2)緩和ケアをめぐる倫理的課題 4.緩和ケアにおけるコミュニケーションと意思決定支援		
	11	乳房の手術を受ける患者の看護	5.緩和ケアにおける看護介入 1)看護介入とはなにか 2)緩和ケアに用いられる看護介入 3)身体的ケア 4)精神的ケア 5)社会的ケア 6)家族ケア		
	12	緩和ケア			
	13				
	14				
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	成人看護学演習		指導担当者名	國分 三起子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	2年次・後期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	成人期にある対象の発達課題を理解し多様な健康状態や健康問題の予防と回復に向けて適切な看護アプローチの基本的考え方や援助の方法を学ぶ				
学習目標	1.疾病・障害をもつことが成人期にある対象に及ぼす影響を理解する。 2.成人の健康上の課題と健康問題をふまえた対象把握について理解する。 3.成人のセルフケア能力を生かし社会復帰にむけた看護計画と援助技術を理解する。				
評価方法	事例の看護過程展開レポート				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	配付資料・成人看護学方法論の全てのテキスト				
授業外学習の方法	事例展開学習				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	事例紹介 事例展開	1.胃癌患者の看護 1)情報の整理とアセスメント		
	2				
	3		2)関連図の作成全体像および・病態関連図		
	4		3)看護計画の立案		
	5		4)看護計画の共有		
	6		5)グループ演習		
	7		6)グループ演習		
	8	看護計画	1.看護計画の援助の実施		
	9				
	10		1. COPD患者の看護 1)事例事前学習のポイント、アセスメント		
	11		2)情報整理とアセスメント		
	12		3)関連図の作成		
	13		3)関連図の作成		
	14		4)看護計画の立案		
	15				
履修上の留意点					
試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	老年看護学概論		指導担当者名	鈴木 邦子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	1年次・後期		対象学科学年	看護学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	4時間	
学習目的	加齢による身体的・精神的・社会的変化や健康状態を把握し、高齢者の生活とそれを取りまく介護者や社会について高齢者の多様性を含め理解できる。				
学習目標	1. 老年期にある高齢者の特徴を理解する。 2. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化とそれによる生活変化を理解する。 3. 高齢者を支えるケアシステムを理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学概論・老年保健 医学書院				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	高齢社会と社会保障	1. 老いるということ、老いを生きるということ 2. 高齢社会の統計的輪郭 3. 高齢社会における保健医療福祉の動向 4. 権利擁護		
	2	老年看護の基盤	1. 老年看護の成り立ち 2. 老年看護の役割 3. 老年看護に関わる者の責任		
	3	高齢者のアセスメント	1. 身体の高齢変化とアセスメント 1) 看護職が行うフィジカルアセスメント ①皮膚 ②視聴覚 ③循環系 ④呼吸器系 ⑤消化・吸収		
	4		⑥ホルモン ⑦泌尿生殖器の性 ⑧運動系 2. 高齢者によくみられる身体症状とアセスメント ①発熱 ②痛み ③痒痒 ④脱水 ⑤嘔吐 ⑥浮腫 ⑦倦怠感		
	5	高齢者のリスクマネジメント	1. 高齢者のリスクマネジメント 1) 高齢者と医療安全 ①高齢者と医療事故～④高齢者がみまわれやすい事故		
	6		2) 高齢者と救命救急 ①救急を受診する高齢者の特徴 ②救命救急場面における看護師の役割		
	7		3) 高齢者と災害看護 ①災害と災害看護 ～ ③災害のサイクルに伴う看護支援		
	8	まとめ	高齢者の看護の重点事項		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	老年看護学方法論Ⅰ		指導担当者名	渡邊 真美		
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有	
開講時期	2年次・前期		対象学科・学年	看護学科 2年		
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:		
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間		
学習目的	さまざまな健康状態にある高齢者に対し、健康課題に応じた基本的な高齢者看護を学ぶ。					
学習目標	1. 老年期について理解を深める。 2. 高齢者の健康づくりについて理解できる。 3. 高齢者看護の基本を理解できる。					
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。					
使用教材	新体系看護学講座 専門分野Ⅱ 健康障害をもつ高齢者の看護					
授業外学習の方法	課題レポート					
学期	ターム	項目	授業内容			
授業計画 前期	1	老年看護に求められるもの	1. 超高齢社会の現状 2. 高齢者医療の現場における現状と課題			
	2		3. 高齢者医療の目的設定・エンドポイント 4. 老年看護に求められる素養			
	3	老年症候群	1. 急性疾患に付随する症候 1) 意識障害 2) 熱中症			
	4		3) 脱水症 4) 発熱			
	5		2. 慢性疾患に付随する症候 1) 腰背痛の成因・治療・看護 2) やせの成因・治療・看護			
	6		3) 手足のしびれ・浮腫の成因・治療・看護 4) 睡眠障害の成因・治療・看護			
	7		3. ADL低下に合併する症候 1) 転倒・骨折 2) 排尿障害(尿失禁)			
	8		3) 便秘 4) 嚥下障害 5) 入浴事故			
	9		高齢者の生活機能を整える看護の展開	1. 日常生活を支える基本的活動 1) 基本動作と環境のアセスメントと看護 2) 転倒・廃用症候群のアセスメントと看護		
	10			2. 食事・食生活 ①高齢者に特徴的な変調 ②摂食・嚥下機能のアセスメント ③食前・食後ケア、摂食・嚥下リハビリテーション		
	11	3. 排泄 1) 排泄障害のアセスメントと看護 2) 排尿・排便障害のアセスメントと看護				
	12	4. 清潔 1) 高齢者に特徴的な変調 2) 清潔のアセスメント・看護				
	13	5. 生活リズム 6. コミュニケーション				
	14	高齢者のフィジカルアセスメント	1. 問診、視診、聴診、血圧測定 2. 栄養評価			
	15	高齢者と薬	1. 高齢者の安全な薬物治療 2. 栄養評価 3. 薬物管理能力のアセスメント			
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。						

専門分野Ⅱ

科目名	老年看護学方法論Ⅱ		指導担当者名	小砂子 直美 圓谷 美紀	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	2年次・前期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	老年期にある対象の特徴をふまえ、健康状態に合わせた自立支援の方法と健康上の課題に応じた看護の基本を学ぶ。				
学習目標	1. 高齢者に多い疾患・障害に対する看護を理解する。 2. 治療を受ける高齢者の看護を理解できる。 3. 高齢者を介護する家族への看護を理解できる。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	新体系看護学講座 専門分野Ⅱ 健康障害をもつ高齢者の看護				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	高齢者の疾患の特徴	1. 循環器系の疾患 1) 虚血性心疾患 2) 心不全		
	2		3) 不整脈 4) 動脈硬化 5) 高血圧		
	3		1. 呼吸器系の疾患 1) 肺炎 2. 消化器系の疾患 1) 逆流性食道炎、胃・十二指腸潰瘍 2) 消化器腫瘍(胃がん・大腸がん)		
	4		3. 運動器の疾患 1) 骨そしょう症 2) 大腿骨頸部骨折 3) 変形性膝関節症 4) 腰部脊柱管狭窄症		
	5		4. 皮膚の疾患 1) 褥瘡		
	6		1. 感覚器の疾患 1) 白内障・味覚障害歯 2) 口腔疾患、感染症		
	7	健康逸脱からの回復と終末期を支える看護の展開	1. 検査・治療を受ける高齢者への看護 1) 高齢者が受けることの多い検査・援助 2) 栄養ケア・マネジメント		
	8		3) 高齢者に特徴的な手術(前立腺肥大症など)		
	9		2. 終末期における看護		
	10		3. 認知機能の障害に対する看護 1) うつ 2) せん妄		
	11		3) 認知症 4) パーキンソン病		
	12	高齢者のリハビリテーション	1. 寝たきり患者のリハビリテーション 2. 介護予防のリハビリテーション 3. 認知症短期集中リハビリテーション		
	13	高齢者の在宅医療とエンドオブライフケア	1. 高齢者の在宅医療における看護の役割 2. 終末期における入院医療と在宅医療の連携 3. 高齢者医療におけるチーム医療		
	14	生活・療養の場における看護の展開	1. 保健医療施設における看護 2. 介護を必要とする高齢者を含む家族への看護		
	15	口腔ケア 義歯洗浄	1. 高齢者の口腔の清潔に関わる援助		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	老年看護学演習		指導担当者名	故砂子 直美	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	2年次・前期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	長い生活暦をもつ高齢者を全人的に理解し、個別の健康状態に応じた自立を促し、対象のQOLを重視した看護の展開ができるように、老年看護における看護過程の一連の過程を学ぶ。				
学習目標	1.疾患および障害が高齢者の生活に及ぼす影響を理解する。 2.高齢者の健康上の課題と看護上の問題をアセスメントする。 3.高齢者のADLの自立やQOLの向上をふまえて個別性のある看護計画および援助技術を理解する。				
評価方法 評価基準	事例の看護展開レポート 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	講義ごと資料配布				
授業外学習の方法	事例の展開自主演習				
学期	ターム	項 目	授業内容		
授業計画 前期	1	事例紹介	1.事例紹介 1)疾患の原因・誘因・一般経過 2)加齢現象・残存能力 2.情報の確認		
	2	アセスメント	1.情報の整理 2.情報の分析解釈 3.全体像および関連図 4.看護問題の明確化		
	3		1)優先順位		
	4				
	5	看護計画	1.計画立案 1)目標設定 2)評価日設定 3)計画立案		
	6		O-P T-P E-P		
	7		1. 高齢者にとってのリハビリテーションの意義と特徴 1)生活リハビリについて 2)遊びリテーションについて		
	8	実施	2. 高齢者のADLに合わせたリハビリテーションの工夫 3. 高齢者の残存機能に合わせたリハビリテーションの工夫 4. リハビリテーションの指導方法		
	9				
	10		1. リハビリテーションの実際 1) 高齢者のADLに合わせた指導の実際 2) 高齢者の残存機能に合わせた指導の実際		
	11	評価・修正	2. 実施の記録		
	12				
	13		1. 評価 2. 修正		
	14				
	15				
履修上の留意点 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	小児看護学概論		指導担当者名	吉田 祥子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	2年次・前期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	2時間	
学習目的	子どもと家族の健康な生活への支援のために、子どもの健康な成長・発達を遂げる権利を理解し、変化する社会の中での子どもをめぐる問題や課題を明らかにし看護の役割を学ぶ。				
学習目標	1.社会的存在としての子どもの権利を理解する。 2.子どもの成長・発達の特徴を理解する。 3.子どもの成長・発達と環境及び家族のあり方との関連を理解する。 4.変化する社会の中での子どもをめぐる問題から小児看護の課題・役割を理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	新体系看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児保健				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	小児看護の特徴	1.小児看護の対象と目的・役割 2.小児と家族の変遷 3.小児看護における倫理 4.小児看護の課題		
	2	子どもの成長・発達	1.成長・発達とは 2. 成長・発達の進み方 3. 成長・発達に影響する因子 4. 成長の評価 5. 発達の評価		
	3	子どもの栄養	1. 子どもにとっての栄養の意義 2. 子どもと食育 3. 食事摂取基準 4. 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護		
	4	新生児・乳児	1. 新生児 ①形態的特徴 ②身体生理の特徴 等 2. 乳児 ①形態的特徴 ②身体生理の特徴		
	5	幼児・学童	1. 幼児 ①形態的特徴 ②身体生理の特徴 等 2. 学童 ①形態的特徴 ②身体生理の特徴 等		
	6	思春期・青年期の子ども	1. 形態的特徴 2. 身体生理の特徴 3. 知的・情緒的・社会的機能 4. 生活の特徴 5. 飲酒・喫煙 6. 性 7. 事故・外傷 8. 看護		
	7	家族の特徴とアセスメント	1. 子どもにとっての家族とは 2. 家族アセスメント 3. 子どもと家族を取り巻く社会 1) 児童福祉 2) 母子保健 3) 医療費の支援 等		
	8	まとめ	1. 小児看護の展望と課題		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	小児看護学方法論Ⅰ		指導担当者名	吉田 祥子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	2年次・後期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	健康障害を持つ子どもと家族が生活・療養するための看護実践の基礎となる看護について学ぶ。				
学習目標	1.疾病・障害が子どもと家族に与える影響を理解する。 2.小児における疾病の経過と看護を理解する。 3.疾患をもった子どもの看護を理解する。 4.障害のある子どもと家族の特徴を学び援助の基本的な考え方を理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	新体系看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児保健 健康障害をもつ小児の看護				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	疾病・障害を持つ子どもと家族の看護	1.疾病・障害が子どもと家族に与える影響 2.子どもの健康問題と看護 3.健康問題をもつ子どもの家族の看護		
	2	疾病の経過と看護	1.慢性期・急性期・周手術期の特徴と小児・家族の看護 2.生命・死についての小児のとりえ方 3.子どもをなくした家族の看護		
	3	子どもにおける疾病の経過と看護	1. 慢性期にある子どもと家族の看護 1) 慢性期の特徴 2) 慢性状態が子どもに与える影響 3) 子どもと家族の看護		
	4				
	5		2. 急性期にある子どもと家族の看護 1) 急性期の特徴 2) 子どもと家族の看護 ①生命維持、生体機能の安定 他		
	6		3. 周手術期にある子どもと家族の看護 1) 周手術期の特徴 ①小児期の手術の特徴 ②手術を受ける子どもと家族の反応		
	7		2) 子どもと家族の看護 ①術前～術後急性期～術後回復期の看護		
	8		4. 終末期の子どもと家族の看護 1) 終末期の特徴 4) 子どもを亡くした家族の看護 他		
	9	子どものアセスメント	1. アセスメントに必要な技術 2. 身体的アセスメント 1) 一般状態、眼 2) 眼 3) 耳 4) 顔面・鼻・口腔		
	10		5)呼吸 6)心臓・血管系 7)腹部 8)筋・骨格系 9)神経系 10)生殖器 11)リンパ系 12)皮膚・爪・体毛		
	11	症状を示す子どもの看護	1、症状を示す子どもの看護 1) 不きげん 2) 啼泣 3) 痛み 4) 呼吸困難 5) チアノーゼ 6) ショック 7) 意識障害 8) けいれん 9) 発熱 10) 嘔吐 11) 下痢 ～ 18) 黄疸		
	12				
	13	検査・処置を受ける子どもの看護	1. 検査・処置総論 2. 薬物動態と薬用量の決定 3. 検査・処置各論 ①与薬 他		
	14	障害のある子供と家族の看護	1. 障害のとりえ方 2. 障害のある子どもと家族の特徴 3. 障害のある子どもと家族の社会的支援		
	15	子どもの虐待と看護	1. 子どもの虐待の現状と対策の経緯 2. 子どもの虐待とは 3. リスク要因と発生予防・早期発見 他		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	小児看護学方法論Ⅱ		指導担当者名	吉田 祥子	
実務経験	助産師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	2年次・後期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	小児との援助関係形成や環境づくりの必要性を理解し、小児の看護実践に必要な援助の技術を学ぶ。				
学習目標	1.子どもと家族との援助関係形成や環境づくりに関する援助技術を理解する。 2.子どもの観察に関する援助技術を理解する。 3.子どもの検査・処置、食事に関する援助技術を理解する。 4.保育器の取り扱いに関する援助技術を理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	新体系看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児保健 健康障害をもつ小児の看護				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項 目	授業内容		
授業計画 後期	1	染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護	1、出生前の看護 2. 出生後の看護 3. 疾患を持った子どもの看護 1)ダウン症候群の子どもの看護 2)18トリソミー症候群の子どもの看護		
	2	新生児の看護	1. 看護総論 2. 疾患を持った子どもの看護 1)低出生体重児の看護 2)新生児仮死 3)高ビリルビン血症		
	3	代謝性疾患と看護	1. 看護総論 2. 疾患を持った子どもの看護 1)Ⅰ型糖尿病をもつ子ども 2)Ⅱ型糖尿病をもつ子ども		
	4	内分泌疾患と看護	1. 看護総論 2. 疾患を持った子どもの看護 1)下垂体疾患 2)先天性副腎過形成 3)甲状腺疾患		
	5	免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護	1. 看護総論 2. 疾患を持った子どもの看護 1)食物アレルギー 2)気管支喘息 3)若年性特発性関節炎		
	6	感染症と看護	1. 看護総論 2. 疾患を持った子どもの看護 1)麻疹 2)風疹 3)流行性耳下腺炎 4)髄膜炎 他		
	7	呼吸器疾患と看護	1. 看護総論 2. 疾患を持った子どもの看護 1)かぜ症候群 2)肺炎		
	8	循環器疾患と看護	1. 看護総論 2. 疾患を持った子どもの看護 1)ファロー四徴症 2)川崎病		
	9	消化器疾患と看護	1. 看護総論 2. 疾患を持った子どもの看護 1)形成異常 2)その他		
	10	血液・造血器疾患と看護 悪性新生物と看護	1. 看護総論 2. 疾患を持った子どもの看護 1)貧血 2)出血傾向 3)輸血が必要となる 4)再生不良性貧血 5)白血病		
	11	腎・泌尿器及び生殖器と看護	1. 看護総論 2. 疾患を持った子どもの看護 1)ネフローゼ症候群 2)泌尿・生殖器疾患		
	12	神経疾患と看護 運動器疾患と看護	1. 看護総論 2. 疾患を持った子どもの看護 1)けいれん 2)脳性麻痺 3)先天性股関節脱臼 4)骨折 他		
	13	皮膚疾患・眼疾患・耳鼻咽喉疾患と看護	1. 看護総論 2. 疾患を持った子どもの看護 1)アトピー 2)斜視 3)中耳炎 他		
	14	精神疾患と看護	1. 看護総論 2. 疾患を持った子どもの看護 1)不登校 2)注意欠如・多動症 3)発達障害		
	15	事故・外傷と看護	1. 看護総論 2. 疾患を持った子どもの看護 1)溺水 2)熱中症 3)熱傷		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	小児看護学演習		指導担当者名	吉田 祥子
実務経験	助産師として病院勤務の経験あり		実務経験	有
開講時期	3年次・前期		対象学科学年	看護学科 3年
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間
学習目的	小児の成長・発達段階と家族との関係を基本に、小児は著しい成長・発達の途中にあるという視点で対象を把握し看護が展開できるように、小児看護における看護過程の一連の過程を学ぶ。			
学習目標	1.乳児期・幼児期・学童期・思春期の一般的な特徴をふまえ、対象の個別的な特徴を理解する。 2.疾病・障害をもつことが小児とその家族に及ぼす影響を理解する。 3.小児の特性をふまえた対象把握(アセスメント)について理解する。 4.小児の特性をふまえた看護計画と援助技術を理解する。			
評価方法 評価基準	筆記試験・演習レポート 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。			
使用教材	新体系看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児保健 健康障害をもつ小児の看護			
授業外学習の方法	課題レポート			
学期	ターム	項目	授業内容	
授業計画 前期	1	小児各期における成長・発達	1.乳児期の成長・発達(身体的・心理的・社会的側面) 2.幼児期の成長・発達(身体的・心理的・社会的側面) 3.学童期の成長・発達(身体的・心理的・社会的側面) 4.思春期の成長・発達(身体的・心理的・社会的側面)	
	2			
	3	事例紹介	1.対象:4歳の気管支喘息、9歳のⅠ型糖尿病の小児 2.情報の確認 1)生育歴 2)現病歴・既往歴 3)病気についての理解等	
	4	アセスメント	1.情報の整理 2.情報の確認分析解釈 3.全体像および関連図 4.看護問題の明確化 1)問題の優先順位	
	5			
	6	看護計画	1.計画立案 1)目標設定 2)評価日設定 3)計画立案 O-P T-P E-P 4)評価・修正 1.小児における遊びの意義と特徴 2.ベッド上でできる遊び 3.小児の成長・発達に合わせた遊びの工夫 4.遊び道具の作成 5.遊びの実際 6.実施の記録	
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12	指導技術	1. 学童期における治療の教育的指導技術 2. グループ発表	
	13			
	14			
	15			
履修上の留意点				
試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。				

専門分野Ⅱ

科目名	母性看護学概論		指導担当者名	千葉 志保	
実務経験	助産師として病院に勤務し看護業務に従事していた			実務経験	有
開講時期	2年次 前期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	1単位・15時間		週時間数	4時間	
学習目的	母性看護の概念を理解し、母性を取り巻く社会の変遷や現状から看護の役割を学ぶ。				
学習目標	1. 母性看護の基礎となる概念を理解する。 2. 母性看護の対象を取巻く社会の変遷と現状、施策について理解を深める。 3. 女性のライフサイクル各期における問題と健康教育の課題を理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院				
授業外学習の方法	特になし				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	母性看護の基盤となる概念	1. 母性とは 2. 母子関係と家族発達 3. セクシャリティー		
	2		4. リプロダクティブヘルス/ライツ 5. 母性看護のあり方 6. 母性看護の倫理		
	3	母性看護の対象を取巻く社会の変遷の現状	1. 母性看護の歴史的変遷と現状 2. 母性看護の対象を取巻く環境		
	4	母性看護の対象理解	1. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2. 女性のライフサイクルと家族 3. セクシャリティー母性の発達・成熟・継承		
	5	母性看護に必要な看護技術	1. 母性看護における看護過程 2. 情報収集・アセスメント技術 3. 母性看護に使われる看護技術		
	6	女性のライフステージ各期における看護	1. ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2. 思春期の健康と看護 3. 成熟期の健康と看護 4. 更年期の健康と看護 5. 老年期の健康と看護		
	7	リプロダクティブヘルスケア	1. 家族計画 2. 性感染症とその予防 3. 人工妊娠中絶 4. 喫煙女性の健康と看護		
	8		5. 性暴力を受けた女性に対する看護 6. HIV感染した女性への看護		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名		母性看護学方法論Ⅰ		指導担当者名		千葉 志保	
実務経験		助産師として病院に勤務し看護業務に従事していた				実務経験	有
開講時期		2年次 前期		対象学科学年		看護学科 2年	
授業方法		講義:○	演習:	実習:		実技:	
単位数		1単位・30時間		週時間数		4時間	
学習目的		生殖に関わる健康問題を知り、妊娠期・分娩期にある対象と家族に対する看護について学ぶ。					
学習目標		1. 子どもを産み育てるにあたり生じる遺伝および不妊や自己決定を助けるための態度について理解する。 2. 妊娠期および分娩期における身体的・生理的変化について理解する。 2. 妊娠期および分娩期の起こりやすい異常とその看護を理解する。					
評価方法 評価基準		筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。					
使用教材		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院					
授業外学習の方法		特になし					
学期	ターム	項目	授業内容				
授業計画 前期	1	母性の発揮を促す看護	1. 子どもを産み育てるということ 2. 遺伝相談 3. 不妊治療のその看護				
	2						
	3	妊娠期における看護	1. 妊娠期の身体的特性 2. 妊娠期の心理・社会的特性 3. 妊婦と胎児のアセスメント 4. 妊婦と家族の看護				
	4						
	5						
	6	妊娠期の異常と看護	1. 妊娠の異常と看護 1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠期の感染 3) 妊娠疾患 4) 多胎妊娠 5) 妊娠持続期間の異常 6) 子宮外妊娠 7) ハイリスク妊娠の看護				
	7						
	8						
	9	分娩期における看護	1. 分娩の要素 2. 分娩の経過 3. 産婦・胎児、家族のアセスメント 4. 産婦と家族の看護 5. 分娩期の看護の実際				
	10						
	11						
	12	分娩期の異常と看護	1. 分娩の異常と看護 1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 胎児の異常による分娩障害 4) 産科処置と産科手術 5) 異常分娩時の産婦の看護 6) 分娩時異常出血のある産婦の看護				
	13						
	14						
	15						
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。							

専門分野Ⅱ

科目名		母性看護学方法論Ⅱ		指導担当者名		千葉 志保		
実務経験		助産師として病院に勤務し看護業務に従事していた				実務経験		有
開講時期		2年次 後期			対象学科学年		看護学科 2年	
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		1単位・30時間			週時間数		4時間	
学習目的		産褥期にある対象と家族に対する看護について学ぶ。						
学習目標		1. 産褥期および新生児の身体的・生理的变化について理解する。 2. 産褥期および新生児の起こりやすい異常とその看護を理解する。						
評価方法 評価基準		筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。						
使用教材		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院						
授業外学習の方法		特になし						
学期	ターム	項 目		授業内容				
授業計画 後期	1	産褥期における看護	1. 産褥経過 1)産褥期の身体的変化 2)産褥期の心理・社会的変化 2. 褥婦のアセスメント 1)産褥期の身体的変化産褥経過の診断 2)褥婦の健康状態のアセスメント 3. 褥婦と家族の看護 4. 施設退院後の看護					
	2							
	3							
	4							
	5	産褥の異常と看護	1)子宮復古不全 2)産褥期の発熱 3)産褥血栓症 4)精神障害 5)異常のある褥婦の看護 6)精神障害合併妊婦と家族の看護					
	6							
	7							
	8							
	9	新生児期における看護	1. 新生児の生理 1)新生児とは 2. 新生児のアセスメント 1)新生児の診断 2)新生児の健康状態のアセスメント 3. 新生児の看護 1)出生直後の看護 2)出生後から退院時までの看護					
	10							
	11							
	12							
	13	新生児の異常と看護	1)新生児仮死 2)分娩外傷 3)低出生体重児 4)高ビリルビン血症					
	14							
	15							
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。								

専門分野Ⅱ

科目名		母性看護学演習		指導担当者名		千葉 志保		
実務経験		助産師として病院に勤務し看護業務に従事していた				実務経験		有
開講時期		3年次 前期			対象学科学年		看護学科 3年	
授業方法		講義:		演習:○		実習:		実技:
単位数		1単位・30時間			週時間数		4時間	
学習目的		周産期における健康問題をウェルネスの視点で対象の健康問題をアセスメントし、個別的な援助ができるための知識・技術・態度を習得する母性看護の基礎を学ぶ。						
学習目標		1. 母性看護におけるウェルネスの視点を理解する。 2. ウェルネスの視点での対象を理解する。 3. 対象の健康を高められるような計画の立案と援助方法を理解する。						
評価方法 評価基準		筆記試験・技術実技試験 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。						
使用教材		その都度配布						
授業外学習の方法		特になし						
学期	ターム	項 目		授業内容				
授業計画 前期	1	ウェルネスとは		1. ウェルネスとは 2. 母性看護におけるウェルネスの視点とは 3. ウェルネスを高めるとは				
	2	産褥期の全体像		1. 褥婦と新生児の全体像 1) 産褥期 2) 新生児 3) 褥婦と新生児				
	3							
	4							
	5	産褥経過		1. 産褥経過表の作成 (褥婦と新生児)				
	6							
	7	母性看護に必要な 基礎的技術		1. 母性看護における一般的な指導技術 1)レオポルド触診法 2) 胎児心音聴取 3) 胎盤計測 4) 新生児計測 5) 調乳 6) 沐浴				
	8							
	9			2. パンフレット作成 1) 沐浴指導				
	10							
	11	沐浴評価の実際		1. 沐浴指導の実際を評価する				
	12							
	13	振り返り		実習にむけて学習ノートの整理				
	14							
	15							

履修上の留意点	
試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。	

専門分野Ⅱ

科目名	精神看護学概論Ⅱ		指導担当者名	渋川 慶子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	2年次・前期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15 時間		週時間数	4時間	
学習目的	こころの健康とその障害について精神看護の機能と役割を学ぶ。				
学習目標	1. 精神疾患・障害とその治療の歴史的な流れを理解する。 2. 日本における精神医学・精神医療の流れを理解する。 3. 社会学の視点から精神障害を考える。 4. 精神科看護師として知っておくべき法制度を学ぶ。				
評価方法	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学①精神看護学の基礎 医学書院				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項 目	授業内容		
授業計画 前期	1	社会のなかの精神障害	1. 精神障害と治療の歴史		
	2		2. 日本における精神医学・精神医療の流れ		
	3		3. 精神障害と文化		
	4		4. 精神障害と社会学 5. 精神障害と法制度		
	5		6. 精神科領域で必要な法律と制度 1) 権利擁護に関する法律と制度		
	6		2) 法律・制度における課題		
	7		3) 主要な精神保健医療福祉対策		
	8		7. 精神看護の展望と課題		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	精神看護学方法論		指導担当者名	須田 学 洪川 慶子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	2年次・後期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	精神の健康障害について日常生活に及ぼす影響と障害に応じた援助の方法を学ぶ。				
学習目標	1.精神を障害された人への看護援助の基本を習得する。 2.精神看護におけるコミュニケーション技術の方法と意義について理解する。 3.精神を障害された人の主な症状と看護について理解する。 4.地域で生活する精神障害者の援助方法について理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学の展開 精神看護学② 医学書院				
授業外学習 の方法	課題レポート				
学期	ターム	項 目	授業内容		
授業計画 後期	1	ケアの人間関係	1. ケアの原則 2. ケアの方法 3. 関係をアセスメントする 4. 患者・看護師関係でおこること		
	2	精神科における看護の役割	1. 入院治療の意味を理解する 2. 患者のアセスメント		
	3		2. 治療的環境をつくる 3. 安全を守る		
	4		4. 緊急事態に対処する。 1)自殺 2)暴力 3)無断離院 4)緊急事態とスタッフのサポート		
	5	身体をケアする	1. 身体的ケア 2. 身体にあらわれる心の痛み		
	6		3. 精神科の治療と身体ケア		
	7		4. 精神科における身体ケアの実際 5. 睡眠の援助		
	8		6. 心的外傷をもつ患者への身体からはじまるケア 1)自傷行為や多彩な身体症状を訴える患者たち ～6)回復段階における看護師と患者の関係		
	9	地域で生活するための原則	・安全な基地を獲得する ・仲間をつくる ・本人と家族		
	10	生活を支える制度	・生活と社会制度 ・生活と法律、制度		
	11	精神障害者と地域生活	・地域生活を支えるためのサービス ・エンパワメントのためのサービス ・仕事に向けてのサービス		
	12	地域での看護の実際	・青年期の患者の地域生活を支える ・若い患者の退院を支援する ・長期入院患者の支援		
	13	精神科以外での精神看護	1. 身体疾患と精神看護 2. 看護カウンセリング 3. リエゾン精神看護		
	14		4. コミュニティにおける精神保健・精神看護		
	15	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	1. 看護師の不安と防衛 2. 看護師の感情ワーク 3. 感情労働を生きのびるために		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

専門分野Ⅱ

科目名	精神看護学演習		指導担当者名	渋川 慶子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	3年次・前期		対象学科学年	看護学科 3年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	1.精神を障害された人の病的体験について理解する。 2.精神科の看護過程の展開を学ぶ。				
学習目標	1.精神を障害された人の病的世界を疑似体験できる。 2.精神を障害された人の看護計画を立案し、援助技術を理解する。 3.精神を障害された人のケアについて具体的にイメージできる。				
評価方法	事例の看護過程展開レポート				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	教員作成資料				
授業外学習の方法	事例の看護過程演習				
学期	ターム	項 目	授業内容		
授業計画 前期	1	病的体験世界とは	・ビューティフル・マインド(DVD) ・学びのレポート提出 ・ワープロで作成1200字以内 ・フォントMS明朝、サイズ10.5		
	2				
	3	精神科で用いられている理論	・ペプロウ ・オレム・アンダーウッド理論		
	4				
	5	セルフケアモデル	・セルフケアモデルを用いた情報収集とアセスメントの方法		
	6				
	7	看護過程の展開	・紙上事例からの情報収集 ・情報のアセスメント		
	8				
	9	看護過程の展開	・関連図作成 ・看護問題抽出		
	10				
	11	看護過程の展開	・看護目標の設定 ・看護計画の立案		
	12				
	13	G 発表と評価	・各グループ発表 ・看護問題、看護目標、OP、TP、EP		
	14				
	15				

履修上の留意点	
試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができます。	

統合分野

科目名	在宅看護論方法論Ⅰ		指導担当者名	渋川慶子
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり		実務経験	有
学年・時期	2年次・前期		対象学科学年	看護学科 2年
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	4時間
学習目的	在宅で生活する疾病や障害をもつ人々、生活自立が困難で支援を必要とする人々とその家族に対して、看護を実践する能力を養う。			
学習目標	1. 看護実践への理論の応用が理解できる。 2. 在宅における日常生活援助が理解できる。			
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。			
使用教材	医学書院 在宅看護論			
授業外学習の方法	課題レポート			
学期	ターム	項目	授業内容	
授業計画 前期	1	看護実践への理論の応用	1. 療養者と家族の支援教育をするためには 1) 在宅療養の理解 2) ICF 3) 支援や教育に活用される理論	
	2		2. 療養者・家族への支援教育	
	3	在宅における日常生活援助	1. 環境調整 1) 環境調整のアセスメントと援助	
	4		2. 食事 1) 食事のアセスメントと援助 2) 嚥下障害時の援助	
	5		3. 排泄 1) 排泄のアセスメントと援助 2) 排泄補助用具の種類と選択方法 3) 排泄の援助方法に応じた教育・支援のポイント	
	6		4. 排便コントロール	
	7		4. 清潔・皮膚のケア 1) 清潔・皮膚のケアのアセスメントと援助 2) 在宅で実施する清潔方法の種類と方法	
	8		5. 移動 1) 移動に関するアセスメントと援助 2) 転倒・転落予防のポイント	
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。				

統合分野

科目名	在宅看護論方法論Ⅱ		指導担当者名	渡邊真美	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
学年・時期	2年次・前期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	4時間	
学習目的	在宅で生活する疾病や障害をもつ人々、生活自立が困難で支援を必要とする人々とその家族に対して、看護を実践する能力を養う。				
学習目標	1. 在宅における医療処置管理の支援・看護が理解できる。 2. 在宅におけるリスクマネジメントが理解できる。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	医学書院 在宅看護論				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項 目	授業内容		
授業計画 前期	1	医療処置管理の支援・看護	1. 在宅での医療処置 1) 支援・教育のポイント 2) 在宅医療にかかわる診療報酬		
	2		2. 服薬支援 3. 在宅酸素療法 4. 人工呼吸療法		
	3		1) 気管カニューレの管理 2) 吸引 5. 膀胱留置カテーテル法		
	4		6. 経管栄養法 1) 胃瘻の管理 7. 在宅中心静脈栄養法		
	5		8. 褥瘡のケア		
	6		9. 腹膜灌流 10. 人工肛門管理 11. 緊急時の対応		
	7	リスクマネジメント	1. 感染の予防と対応 2. リスクマネジメント		
	8	まとめ			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 出席時間をもって受験することができる。					

統合分野

科目名		在宅看護論方法論Ⅱ		指導担当者名	渡辺 裕子	
実務経験		看護師として訪問看護ステーションに従事している。			実務経験	有
学年・時期		2年次・後期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法		講義:○		演習:	実習:	実技:
単位・時間数		1単位・15時間		週時間数	4時間	
学習目的		在宅で生活する疾病や障害をもつ人々、生活自立が困難で支援を必要とする人々とその家族に対して看護を実践する能力を養う。				
学習目標		1. 在宅療養者の症状、状態をアセスメントし療養者、家族に対し必要な看護援助が理解できる。				
評価方法		筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)				
評価基準		成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材		系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院				
授業外学習の方法		課題レポート				
学期	ターム	項 目		授業内容		
授業計画 後期	1	在宅療養者の症状・状態別の看護	1.寝たきり療養者の在宅看護 1)残存機能の維持向上 2)寝たきり療養者の看護の実際			
	2		2.慢性呼吸不全療養者の在宅看護 1)在宅酸素療法を行っている療養者の看護 2)感染症の看護			
	3		3. 子どもの療養者の在宅看護 1)療養者と家族の発達把握 2)療養者と家族への支援			
	4	在宅療養者の症状・状態別の看護	4.難病療養者の在宅看護 5.認知症の療養者の在宅看護 1) 認知症療養者・家族への支援			
	5		6. 精神疾患の療養者の在宅看護 1) 変化する精神保健医療福祉の状況 2) 在宅精神障害者のセルフケア援助			
	6		7. 在宅における終末期療養者の特徴 1) 終末期がん患者の看護ケア・療養者・家族への指導 2) 終末期のプロセスと支援			
	7	在宅看護活動の実践例	1.保健福祉活動 2.病院 3.小規模なデイケア施設の看護活動 4. 地域包括支援センターの活動			
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。						

統合分野

科目名		地域・在宅看護論演習		指導担当者名		渡邊 真美		
実務経験		看護師として病院勤務の経験あり				実務経験		有
学年・時期		3年次・前期			対象学科学年		看護学科 3年	
授業方法		講義:		演習:○		実習:		実技:
単位・時間数		1単位・30時間			週時間数		4時間	
学習目的		在宅で生活する疾病や障害をもつ人々、生活自立が困難で支援を必要とする人々とその家族に対して、看護を展開する能力を養う。						
学習目標		1. 療養者・家族とのコミュニケーション・面接技術が理解できる。 2. 在宅看護過程の特徴を理解し、療養者・家族のニーズを満たす看護過程の展開ができる。						
評価方法		事例の看護過程展開レポート						
評価基準		成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。						
使用教材		医学書院 在宅看護論 資料配布						
授業外学習の方法		課題レポート						
学期	ターム	項 目		授業内容				
授業計画 前期	1	在宅でのコミュニケーション・面接技術	1. 家庭訪問の意義と訪問時のマナー 1) 対象者の生活の場を訪問する意義 2) 訪問前の準備と訪問時マナー 3) 面接の方法・技術					
	2		2. 信頼関係の形成 1) 信頼関係の必要性 2) 信頼関係を形成するプロセスと技術					
	3		3. 在宅における面接技術(ロールプレイ)					
	4							
	5	看護過程の展開	1. 在宅看護過程とは 2. 在宅看護過程の特質 3. 事例提示 4. 情報収集 5. 情報の分析・解釈 6. 全体像・多職種連携・関連図 7. 看護計画立案					
	6							
	7							
	8							
	9							
	10	発表会	・全体像・多職種連携・関連図 ・看護計画					
	11	パンフレット作成	看護計画から療養者・家族への指導パンフレット作成					
	12							
	13	療養者・家族への指導	ロールプレイ (パンフレットを基に指導を行う)					
	14							
	15							
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。								

統合分野

科目名	看護管理		指導担当者名	佐久間 真樹	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	3年次・前期		対象学科学年	看護学科 3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	看護専門職とは何かを理解し、看護における組織の構造と役割ならびに組織運営を学習し、チーム医療・看護における看護師としての調整とリーダーシップおよびマネジメントができる基礎的能力を養う。				
学習目標	1.看護における組織の構造と役割を理解する。 2.看護組織におけるリーダーシップとメンバーシップを理解する。 3.看護サービスのマネジメントを理解する。 4.マネジメントに必要な知識と技術を理解する。				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	新体系看護学全書 看護の統合と実践 看護実践マネジメント メヂカルフレンド社				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	看護とマネジメント	1.看護管理学とは 2.マネジメントとは 3. 看護を取り巻く法規		
	2	看護管理学とは	1.ケアのマネジメントと看護職の機能 2.看護基準・看護手順 3.患者の権利の尊重		
	3		4.看護職の協働・他職種との協働 5.情報		
	4	看護ケアのマネジメント	1.看護サービスのマネジメント 2.組織目的達成のマネジメント 3.協働のためのマネジメント		
	5		1、仮想病棟～目標と戦略～		
	6	安全管理	1. 医療事故対策 2. インシデント 3. アクシデント		
	7		1. 転倒、転落のアセスメント 2. 転倒・転落時の対応		
	8	リーダーシップとマネジメント	1. リーダーシップの定義 2. マネジメントとリーダーシップ		
	9	看護をとりまく諸制度	1.KYTとは		
	10	看護のマネジメント	1.組織とマネジメント 2.リーダーシップとマネジメント 3.組織の調整		
	11		4.組織と個人 1)集団 2)アサーティブ 3)コミュニケーション 4)パワーとエンパワーメント		
	12				
	13		1. 組織とマネジメント 2. 組織の調整		
	14	マネジメントに必要な知識と技術	3. 組織と個人		
	15		4. チロリアンプラン		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

統合分野

科目名	医療安全		指導担当者名	佐藤 由美	
実務経験	看護師として病院に勤務し看護業務に従事している			実務経験	有
開講時期	3年次・前期		対象学科学年	看護学科 3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	2時間	
学習目的	医療安全の確保には、個々の医療従事者と医療システム双方の安全強化が必要とされる。医療安全の確保にむけて事故防止の視点から必要な知識・技術を学ぶ。				
学習目標	1.医療事故と看護事故の構造を理解し、医療安全を学ぶ重要性を理解する。 2.看護事故防止の考え方と方法を理解する。 3.基本的な倫理観をもとに、医療職の一員として医療安全活動に積極的に取り組む姿勢を身につける。				
評価方法	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	ナーシンググラフィカ 医療安全 メディカ出版				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	医療安全と事故防止	1.医療安全を学ぶ意義 2.医療事故と看護業務 3.看護事故の構造と看護事故防止の考え方		
	2	診療の補助業務における事故	1.業務特性から患者に投与する業務の事故防止 2.注射業務と事故防止 3.注射業務に用いる機器のでの事故防止		
	3		4.輸血業務と事故防止 5.内服与薬業務と事故防止 6.経管栄養業務と事故防止		
	4		7.チューブ管理と事故防止		
	5	療養上の世話における事故防止	1.療養上の世話における事故のとらえ方と防止 2.転倒・転落事故防止 3.誤嚥事故防止 4.異食事故防止 5.入浴中の事故防止		
	6	業務領域外で発生する事故	1.患者間違い事故 2.間違いを誘発するタイムプレッシャーと途中中断 3.思い込みと行動パターン		
	7	医療安全とコミュニケーション 我が国の医療安全対策	1.事故防止のためのコミュニケーション 2.組織の医療安全対策		
	8	まとめ	1.システムとしての事故防止		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

統合分野

科目名	国際看護・災害看護		指導担当者名	渡邊 あゆみ	
実務経験	看護師として病院に勤務し看護業務に従事している			実務経験	有
開講時期	3年次・前期		対象学科学年	看護学科 3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・30時間		週時間数	4時間	
学習目的	災害が社会や人々に与える影響を理解し、災害によって健康を害した人々に対し支援できる看護の基礎的知識・技術・態度を学習する。さらに国内のみならず国際社会においても広い視野に基づき、諸外国との協力について理解を深める。				
学習目標	1.災害における社会の動向を知り、災害看護と災害看護学の位置づけを理解する。 2.災害時の看護活動および被災者への看護ケアを理解する。 3.災害支援ボランティアや救援者自身の防衛方法を理解する。 筆記試験				
評価方法 評価基準	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格) 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 医学書院				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	災害看護学とは災害医療の基礎知識	1. 災害の定義 2. 災害の種類と健康障害 3. 災害医療の特徴 4. 災害と情報 5. 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 6. 法による減災 7. 国内の救援活動の現状と課題		
	2	災害看護の基礎知識	1. 災害看護の定義と役割 2. 災害看護の対象 3. 災害看護の特徴と看護活動 4. 災害時要援護者の看護の特徴		
	3	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	1. 急性期・亜急性期 2. 慢性期・復興期 3. 静穏期		
	4				
	5	被災者特性に応じた災害看護の展開	1. 小児に対する災害看護 2. 母性に対する災害看護 3. 高齢者に対する災害看護 4. 障害者に対する災害看護 5. 精神障害者に対する災害看護 6. 慢性疾患患者に対する災害看護		
	6				
	7	災害こころのケア	1. 被災者のこころのケア 2. 遺族のこころのケア 3. 被災救援者のこころのケア 4. 被災者のストレスとこころのケア		
	8				
	9	災害看護活動の課題	1. 活動時の課題 2. 日頃からの関心 3. 災害看護の実践力は日ごろからの備え 4. 災害看護活動の記録と研究活動		
	10	地震災害看護の展開	1. 発災直後から出動までの看護 2. 急性期の看護 3. 亜急性期の看護		
	11				
	12	国際救援活動における看護	1. 国際救援の定義		
	13		2. 国際救援活動の基本理念		
	14		3. 近世の世界における災害と国際救援活動の現状と課題		
	15		4. 国際救援活動における看護の役割		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

統合分野

科目名	応用看護特論		指導担当者名	鈴木 邦子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験あり			実務経験	有
開講時期	3年次・前期		対象学科学年	看護学科 3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位・時間数	1単位・15時間		週時間数	4時間	
学習目的	既修の看護技術を原理・原則のもと科学的根拠に基づき対象に応じて応用できる能力を養う。				
学習目標	1. 対象に応じた看護技術の安全性・安楽性を理解する。 2. 実施した看護技術に対して自己評価できる。 3. 複数患者の状況を判断し、優先順位が決定できる。				
評価方法	筆記試験 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:59点以下(不合格)				
評価基準	成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	新体系看護学全書 看護の統合と実践 看護実践マネジメント メヂカルフレンド社				
授業外学習の方法	課題レポート				
学期	ターム	項目	授業内容		
授業計画 前期	1	看護における安全性	1. 看護における安全性の考え方 2. ヒューマンエラーと対策 3. エラーの防止対策		
	2	危険予知トレーニング	1. 事例検討 1) 転倒・転落の危険防止 2) 認知症患者の危険防止 3) 食事介助場面の危険防止 4) 車椅子移乗時の危険防止		
	3		2. 事例検討結果の発表		
	4	多重課題の考え方	1. 多重課題とは		
	5		2. 多重課題への対応と学び		
	6	応用技術の実際	1. 経管栄養チューブの挿入 2. 輸液ラインが挿入されている患者の神威交換 3. 気管内吸引の実際		
	7		4. 輸液ポンプ設定と装着中の患者の観察と移動		
	8	まとめ	授業・実習での学びを統合し学びの共有		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 試験は履修時間の3分の2以上の出席時間をもって受験することができる。					

臨地実習

科目名	看護の統合と実践実習		指導担当者名	國分 三起子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験有り			実務経験	有
開講時期	3年次・後期		対象学科学年	看護学科 3年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
単位・時間数	2単位・90時間		週時間数	30時間	
学習目的	看護の対象を総合的に理解し、看護チームの一員として主体的に看護を実践する能力を養う				
学習目標	1. 看護チームの一員としての役割を理解し実践できる能力をに身につける 2. 複数患者を受け持ち、状態に応じて優先順位を考慮した看護を実践できる 3. 夜勤帯における患者の状況や看護師の役割を理解できる 4. 既習の実習を振り返り、看護に対する考えを明確にできる				
評価方法 評価基準	実習評価表に基づき、学生・実習指導者・担当教員の三者で協議し評価する。 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	実習要綱				
授業外学習の方法	その日の実習の学びを整理し、毎日実習レポートを提出する				
学期	回数	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	オリエンテーション	病棟の理解 受け持ち患者2名の情報収集 カンファレンス		
	2	看護管理・安全管理	看護部長・安全管理者の講義受講 病棟管理の実際見学 カンファレンス		
	3	看護援助	情報収集・アセスメント 看護援助 関連図カンファレンス		
	4	看護援助 中間評価	対象の情報収集・アセスメント 関連図提出 カンファレンス		
	5	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画の検討 カンファレンス		
	6	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画提出 カンファレンス		
	7	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 プロセスレコード提出 カンファレンス		
	8	看護援助 リーダー業務	情報収集・アセスメント・看護援助 看護チームリーダーの役割の理解 カンファレンス		
	9	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画評価 カンファレンス		
	10	看護援助 夜間看護実習	情報収集・アセスメント・看護援助 夜勤帯における患者の観察・看護師の役割の理解 カンファレンス		
	11	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 最終カンファレンス 記録一式 評価表提出 学びレポート		
	12	看護援助 最終評価	受け持ち患者への挨拶 実習の振り返り 記録一式 評価表提出 学びレポート		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 履修時間の3分の2以上(8日間以上)の出席時間をもって評価を受けることができる。					

臨地実習

科目名		地域・在宅看護論実習Ⅰ		指導担当者名		渡邊 真美		
実務経験		看護師として病院勤務の経験有り				実務経験		有
開講時期		2年次・後期		対象学科学年		看護学科 3年		
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位・時間数		1単位・45時間		週時間数		30時間		
学習目的		地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅看護に必要な基本的能力を養う						
学習目標		1. 地域で生活する人々の生活と健康にかかわる保健福祉活動が理解できる 2. 地域で療養する人々、家族を支える地域包括ケアシステムについて理解できる 3. 地域で療養する人々と家族を支える訪問看護師の役割について理解できる 4. 看護師としての基本的態度を養う						
評価方法 評価基準		実習評価表に基づき、学生・実習指導者・担当教員の三者で協議し評価する。 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。						
使用教材		実習要綱						
授業外学習の方法		その日の実習の学びを整理し、毎日実習レポートを提出する						
学期	回数	項目		授業内容				
授業計画 後期	1	訪問ステーション オリエンテーション		訪問ステーションの概要の理解 訪問同行利用者の情報収集 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	2	訪問看護見学と参加		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	3	訪問看護見学と参加		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	4	訪問看護見学と参加 中間評価		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	5	訪問看護見学と参加		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	6	訪問看護見学と参加		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	7	訪問看護見学と参加		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	8	訪問看護見学と参加		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	9	訪問看護見学と参加		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	10	訪問看護見学と参加 最終評価		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 記録一式 評価表提出 学びレポート				
	11	地域包括支援センター オリエンテーション		地域包括支援センターの概要の理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	12	地域包括支援センター 評価		地域包括支援センターの活動参加 記録一式 評価表提出 学びレポート カンファレンス(本日の学び・疑問)				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 履修時間の3分の2以上(8日間以上)の出席時間をもって評価を受けることができる。								

臨地実習

科目名		地域・在宅看護論実習Ⅱ		指導担当者名		渡邊 真美		
実務経験		看護師として病院勤務の経験有り				実務経験		有
開講時期		3年次・後期		対象学科学年		看護学科 3年		
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位・時間数		2単位・90時間		週時間数		30時間		
学習目的		地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅看護に必要な基本的能力を養う						
学習目標		1. 地域で生活する人々の生活と健康にかかわる保健福祉活動が理解できる 2. 地域で療養する人々、家族を支える地域包括ケアシステムについて理解できる 3. 地域で療養する人々と家族を支える訪問看護師の役割について理解できる 4. 看護師としての基本的態度を養う						
評価方法 評価基準		実習評価表に基づき、学生・実習指導者・担当教員の三者で協議し評価する。 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。						
使用教材		実習要綱						
授業外学習の方法		その日の実習の学びを整理し、毎日実習レポートを提出する						
学期	回数	項目		授業内容				
授業計画 後期	1	訪問ステーション オリエンテーション		訪問ステーションの概要の理解 訪問同行利用者の情報収集 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	2	訪問看護見学と参加		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	3	訪問看護見学と参加		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	4	訪問看護見学と参加 中間評価		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	5	訪問看護見学と参加		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	6	訪問看護見学と参加		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	7	訪問看護見学と参加		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	8	訪問看護見学と参加		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	9	訪問看護見学と参加		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	10	訪問看護見学と参加 最終評価		訪問同行利用者の情報収集 訪問時の援助内容についての理解 記録一式 評価表提出 学びレポート				
	11	地域包括支援センター オリエンテーション		地域包括支援センターの概要の理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)				
	12	地域包括支援センター 評価		地域包括支援センターの活動参加 記録一式 評価表提出 学びレポート カンファレンス(本日の学び・疑問)				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 履修時間の3分の2以上(8日間以上)の出席時間をもって評価を受けることができる。								

臨地実習

科目名	基礎看護学実習 I		指導担当者名	柳沼 るみ子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験有り			実務経験	有
開講時期	1年次・後期		対象学科学年	看護学科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
単位・時間数	1. 単位・45時間		週時間数	30時間	
学習目的	対象の生活の場を理解し、既習の看護援助を基に日常生活援助を実践する				
学習目標	1. 対象と対象をとりまく環境及び対象が入院生活を送る場としての療養環境を知る 2. 対象が受けている日常生活の援助を理解する 3. 対象に必要な日常生活援助を看護師とともに実施し振り返ることができる 4. 対象とのコミュニケーション過程を振り返り対象との人間関係を築く上のコミュニケーションの大切さがわかる				
評価方法 評価基準	実習評価表に基づき、学生・実習指導者・担当教員の三者で協議し評価する。 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	実習要綱				
授業外学習の方法	その日の実習の学びを整理し、毎日実習レポートを提出する				
学期	回数	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	オリエンテーション	実習病棟、患者の療養環境の理解 患者の療養生活の理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	2	看護援助見学と参加	受け持ち患者の看護援助への参加 看護援助の実際の理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	3	看護援助見学と参加	受け持ち患者の看護援助への参加 看護援助の実際の理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	4	看護援助見学と参加	受け持ち患者の看護援助への参加 看護援助の実際の理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	5	看護援助見学と参加	受け持ち患者の看護援助への参加 看護援助の実際の理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	6	看護援助見学と参加 最終評価	受け持ち患者の看護援助への参加 カンファレンス(本日の学び・疑問) 自己評価と振り返り		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 履修時間の3分の2以上(4日間以上)の出席時間をもって評価を受けることができる。					

臨地実習

科目名		基礎看護学実習Ⅱ		指導担当者名		柳沼 るみ子		
実務経験		看護師として病院勤務の経験有り				実務経験		有
開講時期		1年次・後期		対象学科学年		看護学科 1年		
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位・時間数		2単位・90時間		週時間数		30時間		
学習目的		対象を総合的に理解し、実践されている看護を基に個別的・計画的な援助を実践する能力を養う。						
学習目標		1. 対象を身体的・精神的・社会的側面から捉えることができる 2. 対象が受けている看護の根拠とポイントが理解できる 3. 看護過程を通して対象に応じた援助ができる 4. 看護師として必要な基本的態度を養う						
評価方法 評価基準		実習評価表に基づき、学生・実習指導者・担当教員の三者で協議し評価する。 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。						
使用教材		実習要綱						
授業外学習の方法		その日の実習の学びを整理し、毎日実習レポートを提出する						
学期	回数	項目		授業内容				
授業計画 後期	1	オリエンテーション		実習病棟の理解 受け持ち患者の情報収集 カンファレンス				
	2	看護援助見学と参加		受け持ち患者の情報収集・アセスメント 受け持ち患者の看護援助 カンファレンス				
	3	看護援助		受け持ち患者の情報収集・アセスメント 受け持ち患者の看護援助 カンファレンス				
	4	看護援助		受け持ち患者の情報収集・アセスメント 受け持ち患者の看護援助 カンファレンス				
	5	看護援助		受け持ち患者の情報収集・アセスメント 受け持ち患者の看護援助 カンファレンス				
	6	看護援助 中間評価		受け持ち患者の情報収集・アセスメント 受け持ち患者の看護援助 カンファレンス				
	7	看護援助		受け持ち患者の情報収集・アセスメント 受け持ち患者の看護援助 カンファレンス				
	8	看護援助		受け持ち患者の情報収集・アセスメント 受け持ち患者の看護援助 カンファレンス				
	9	看護援助		受け持ち患者の情報収集・アセスメント 受け持ち患者の看護援助 カンファレンス(関連図)				
	10	看護援助		受け持ち患者の情報収集・アセスメント 受け持ち患者の看護援助 カンファレンス				
	11	看護援助		受け持ち患者の情報収集・アセスメント 受け持ち患者の看護援助 カンファレンス				
	12	看護援助		受け持ち患者への挨拶 実習の振り返り 記録一式 評価表提出 学びレポート				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 履修時間の3分の2以上(8日間以上)の出席時間をもって評価を受けることができる。								

臨地実習

科目名	成人看護学実習 I		指導担当者名	國分 三起子	
実務経験	看護師として病院勤務の経験有り			実務経験	有
開講時期	2年年次・後期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
単位・時間数	2単位・90時間		週時間数	30時間	
学習目的	成人期にある対象と家族および対象の健康上の課題を理解し、慢性期や回復期にある対象への看護を実践できる				
学習目標	1. 慢性期や回復期にある対象および家族を理解できる 2. 慢性期や回復期にある対象の健康問題解決のための看護が実践できる 3. 健康福祉医療チームの一員としての看護の役割を理解できる 4. 看護師として必要な基本的態度を養う				
評価方法 評価基準	実習評価表に基づき、学生・実習指導者・担当教員の三者で協議し評価する。 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	実習要綱				
授業外学習の方法	その日の実習の学びを整理し、毎日実習レポートを提出する				
学期	回数	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	オリエンテーション	病棟の理解 受け持ち患者の情報収集 カンファレンス		
	2	看護援助見学と参加	情報収集・アセスメント 病態カンファレンス 病態学習レポート提出 記録用紙1・1		
	3	看護援助	情報収集・アセスメント 看護援助 関連図カンファレンス		
	4	看護援助 中間評価	対象の情報収集・アセスメント 関連図提出 カンファレンス		
	5	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画の検討 カンファレンス		
	6	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画提出 カンファレンス		
	7	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 プロセスレコード提出 カンファレンス		
	8	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 プロセスレコード提出 カンファレンス		
	9	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画評価 カンファレンス		
	10	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画修正 カンファレンス		
	11	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 最終カンファレンス 記録一式 評価表提出 学びレポート		
	12	看護援助 最終評価	受け持ち患者への挨拶 実習の振り返り 記録一式 評価表提出 学びレポート		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 履修時間の3分の2以上(8日間以上)の出席時間をもって評価を受けることができる。					

臨地実習

科目名		成人看護学実習Ⅱ		指導担当者名		國分 三起子		
実務経験		看護師として病院勤務の経験有り				実務経験		有
開講時期		2年次・後期		対象学科学年		看護学科 2年		
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位・時間数		2単位・90時間		週時間数		30時間		
学習目的		成人期にある対象と家族及び対象の健康上の課題を理解し、急性期にある対象への看護が実践できる						
学習目標		1. 急性期にある対象および家族を理解できる 2. 急性期にある対象の健康問題解決のための看護が実践できる 3. 保健福祉医療チームの一員としての看護師の役割を理解できる 4. 看護師として必要な基本的態度を養う						
評価方法 評価基準		実習評価表に基づき、学生・実習指導者・担当教員の三者で協議し評価する。 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。						
使用教材		実習要綱						
授業外学習の方法		その日の実習の学びを整理し、毎日実習レポートを提出する						
学期	回数	項目		授業内容				
授業計画 後期	1	オリエンテーション		病棟の理解 受け持ち患者の情報収集 カンファレンス				
	2	看護援助見学と参加		情報収集・アセスメント 病態カンファレンス 病態学習レポート提出 記録用紙1・1				
	3	看護援助		情報収集・アセスメント 看護援助 関連図カンファレンス				
	4	看護援助 中間評価		対象の情報収集・アセスメント 関連図提出 カンファレンス				
	5	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画の検討 カンファレンス				
	6	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画提出 カンファレンス				
	7	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 プロセスレコード提出 カンファレンス				
	8	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 プロセスレコード提出 カンファレンス				
	9	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画評価 カンファレンス				
	10	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画修正 カンファレンス				
	11	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 最終カンファレンス 記録一式 評価表提出 学びレポート				
	12	看護援助 最終評価		受け持ち患者への挨拶 実習の振り返り 記録一式 評価表提出 学びレポート				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 履修時間の3分の2以上(8日間以上)の出席時間をもって評価を受けることができる。								

臨地実習

科目名		成人看護学実習Ⅲ		指導担当者名		國分 三起子		
実務経験		看護師として病院勤務の経験有り				実務経験		有
開講時期		3年次・前期		対象学科学年		看護学科 3年		
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位・時間数		2単位・90時間		週時間数		30時間		
学習目的		成人期にある対象と家族及び対象の健康上の課題を理解し、終末期にある対象への看護が実践できる						
学習目標		1. 終末期にある対象および家族を理解できる 2. 終末期にある対象のQOL維持向上のための看護が実践できる 3. 保健福祉医療チームの一員としての看護の役割を理解できる 4. 看護師として必要な基本的態度を養う						
評価方法 評価基準		実習評価表に基づき、学生・実習指導者・担当教員の三者で協議し評価する。 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。						
使用教材		実習要綱						
授業外学習の方法		その日の実習の学びを整理し、毎日実習レポートを提出する						
学期	回数	項目		授業内容				
授業計画 前期	1	オリエンテーション		病棟の理解 受け持ち患者の情報収集 カンファレンス				
	2	看護援助見学と参加		情報収集・アセスメント 病態カンファレンス 病態学習レポート提出 記録用紙1・1				
	3	看護援助		情報収集・アセスメント 看護援助 関連図カンファレンス				
	4	看護援助 中間評価		対象の情報収集・アセスメント 関連図提出 カンファレンス				
	5	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画の検討 カンファレンス				
	6	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画提出 カンファレンス				
	7	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 プロセスレコード提出 カンファレンス				
	8	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 プロセスレコード提出 カンファレンス				
	9	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画評価 カンファレンス				
	10	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画修正 カンファレンス				
	11	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 最終カンファレンス 記録一式 評価表提出 学びレポート				
	12	看護援助 最終評価		受け持ち患者への挨拶 実習の振り返り 記録一式 評価表提出 学びレポート				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 履修時間の3分の2以上(8日間以上)の出席時間をもって評価を受けることができる。								

臨地実習

科目名		老年看護学実習 I		指導担当者名		小砂子 直美		
実務経験		看護師として病院勤務の経験有り				実務経験		有
開講時期		2年次・後期		対象学科学年		看護学科 2年		
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位・時間数		1単位・45時間		週時間数		30時間		
学習目的		老年期にある疾患を持つ対象の健康上の課題を理解し、対象への看護が実践できる						
学習目標		1. 老年期にある疾患を持つ対象ならびにその家族を理解することができる 2. 老年期にある疾患を持つ対象の健康課題解決のための看護が実践できる 3. 保健福祉医療チームの一員としての看護の役割を理解できる 4. 看護師として必要な基本的態度を養う						
評価方法 評価基準		実習評価表に基づき、学生・実習指導者・担当教員の三者で協議し評価する。 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。						
使用教材		実習要綱						
授業外学習の方法		その日の実習の学びを整理し、毎日実習レポートを提出する						
学期	回数	項目		授業内容				
授業計画 後期	1	オリエンテーション		病棟の理解 受け持ち患者の情報収集 カンファレンス				
	2	看護援助見学と参加		情報収集・アセスメント 病態カンファレンス 病態学習レポート提出 記録用紙1・1				
	3	看護援助		情報収集・アセスメント 看護援助 関連図カンファレンス				
	4	看護援助 中間評価		対象の情報収集・アセスメント 関連図提出 カンファレンス				
	5	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画の検討 カンファレンス				
	6	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画提出 カンファレンス				
	7	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 プロセスレコード提出 カンファレンス				
	8	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 プロセスレコード提出 カンファレンス				
	9	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画評価 カンファレンス				
	10	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画修正 カンファレンス				
	11	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 最終カンファレンス 記録一式 評価表提出 学びレポート				
	12	看護援助 最終評価		受け持ち患者への挨拶 実習の振り返り 記録一式 評価表提出 学びレポート				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 履修時間の3分の2以上(8日間以上)の出席時間をもって評価を受けることができる。								

臨地実習

科目名	老年看護学実習Ⅱ		指導担当者名	小砂子 直美	
実務経験	看護師として病院勤務の経験有り			実務経験	有
開講時期	2年次・後期		対象学科学年	看護学科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
単位・時間数	2単位・90時間		週時間数	30時間	
学習目的	地域や施設で生活する対象とその家族への看護を実践できる				
学習目標	1. 地域や施設で生活する対象および家族を理解する 2. 対象の自立に向けた日常生活の援助を実施できる 3. 対象の生活を支えるための看護師と多職種の役割および連携を理解する 4. 看護師として必要な基本的態度を養う				
評価方法 評価基準	実習評価表に基づき、学生・実習指導者・担当教員の三者で協議し評価する。 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。				
使用教材	実習要綱				
授業外学習の方法	その日の実習の学びを整理し、毎日実習レポートを提出する				
学期	回数	項目	授業内容		
授業計画 後期	1	オリエンテーション	介護老人保健施設の理解 入所者の状況の理解 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	2	介護援助	入所者の観察・コミュニケーション 介護の実際 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	3	介護援助	入所者の観察・コミュニケーション 介護の実際 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	4	介護援助	入所者の観察・コミュニケーション 介護の実際 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	5	介護援助	入所者の観察・コミュニケーション 介護の実際 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	6	通所施設実習	通所者の観察・コミュニケーション 介護の実際 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	7	通所施設実習	通所者の観察・コミュニケーション 介護の実際 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	8	看護援助	入所者の医療処置・観察 看護の実際 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	9	看護援助	入所者の医療処置・観察 看護の実際 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	10	看護援助	入所者の医療処置・観察 看護の実際 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	11	看護援助	入所者の医療処置・観察 看護の実際 カンファレンス(本日の学び・疑問)		
	12	看護援助 最終評価	入所者への挨拶 実習の振り返り 記録一式 評価表提出 学びレポート		
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 履修時間の3分の2以上(8日間以上)の出席時間をもって評価を受けることができる。					

臨地実習

科目名	小児看護学実習	指導担当者名	吉田 祥子
実務経験	看護師として病院勤務の経験有り	実務経験	有
開講時期	3年次・後期	対象学科学年	看護学科 3年
授業方法	講義: 演習: 実習:○	実技:	
単位・時間数	2単位・90時間	週時間数	30時間
学習目的	小児の成長発達段階による特徴を理解し、健康上の課題に応じた看護を小児とその家族に実践する		
学習目標	1. 対象の成長発達段階をふまえたうえで、対象である小児と家族の特徴を理解できる 2. 成長発達や健康状態に応じた看護を実践できる 3. 保健・医療・福祉・教育のチームにおける看護師の役割を理解できる 4. 看護師としての必要な基本的態度を養う		
評価方法 評価基準	実習評価表に基づき、学生・実習指導者・担当教員の三者で協議し評価する。成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。		
使用教材	実習要綱		
授業外学習の方法	その日の実習の学びを整理し、毎日実習レポートを提出する		
学期	回数	項目	授業内容
授業計画 後期	1	小児外来実習	小児外来の施設理解 診察時の小児と家族の状況観察 家族指導の見学
	2	小児外来実習	診察時の小児と家族の状況観察 家族指導の見学 カンファレンス(本日の学び・疑問)
	3	保育園実習	保育園の施設理解 園児の成長発達の理解 園児の安全確保の実際
	4	保育園実習	園児の成長発達に応じた遊びとかかわりの理解 園児の安全確保の実際
	5	保育園実習	園児の成長発達に応じた遊びとかかわりの理解 園児の安全確保の実際 カンファレンス(本日の学び・疑問)
	6	小児病棟実習	病棟環境の理解 受け持ち患児の情報収集 カンファレンス
	7	看護援助	情報収集・アセスメント 病態カンファレンス 病態学習レポート提出 記録用紙1・1
	8	看護援助 中間評価	情報収集・アセスメント 看護援助 関連図カンファレンス
	9	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画の検討 カンファレンス
	10	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画提出 カンファレンス
	11	看護援助	情報収集・アセスメント・看護援助 プロセスレコード提出 カンファレンス
	12	看護援助 最終評価	受け持ち患児への挨拶 実習の振り返り 記録一式 評価表提出 学びレポート
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 履修時間の3分の2以上(8日間以上)の出席時間をもって評価を受けることができる。			

臨地実習

科目名		母性看護学実習		指導担当者名		千葉 志保		
実務経験		助産師として病院勤務の経験有り				実務経験		有
開講時期		3年次・後期		対象学科学年		看護学科 3年		
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位・時間数		2単位・90時間		週時間数		30時間		
学習目的		妊娠・分娩・産褥期にある対象を理解し、母子および家族に対して援助する基礎的能力を養う						
学習目標		1. 周産期における対象の特徴を理解できる 2. 褥婦及び新生児の看護を理解できる 3. 生命の誕生をとおり命の尊厳を理解できる 4. 看護師として必要な基本的態度を養う						
評価方法 評価基準		実習評価表に基づき、学生・実習指導者・担当教員の三者で協議し評価する。 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。						
使用教材		実習要綱						
授業外学習の方法		その日の実習の学びを整理し、毎日実習レポートを提出する						
学期	回数	項目		授業内容				
授業計画 後期	1	オリエンテーション		病棟の理解 受け持ち患者の情報収集 カンファレンス				
	2	産科外来実習 妊娠中の看護		妊娠中の健康診査 妊婦の健康管理 妊婦の保健指導				
	3	新生児の観察・看護 褥婦の看護援助		新生児の観察・情報収集・アセスメント 産褥経過の観察・看護援助・保健指導 カンファレンス				
	4	新生児の観察・看護 褥婦の看護援助		新生児の観察・情報収集・アセスメント 産褥経過の観察・看護援助・保健指導 カンファレンス				
	5	新生児の観察・看護 褥婦の看護援助		新生児の観察・情報収集・アセスメント 産褥経過の観察・看護援助・保健指導 カンファレンス				
	6	新生児の観察・看護 褥婦の看護援助		新生児の観察・情報収集・アセスメント 産褥経過の観察・看護援助・保健指導 カンファレンス				
	7	新生児の観察・看護 褥婦の看護援助		新生児の観察・情報収集・アセスメント 産褥経過の観察・看護援助・保健指導 カンファレンス				
	8	新生児の観察・看護 褥婦の看護援助		新生児の観察・情報収集・アセスメント 産褥経過の観察・看護援助・保健指導 カンファレンス				
	9	新生児の観察・看護 褥婦の看護援助		新生児の観察・情報収集・アセスメント 産褥経過の観察・看護援助・保健指導 カンファレンス				
	10	新生児の観察・看護 褥婦の看護援助		新生児の観察・情報収集・アセスメント 産褥経過の観察・看護援助・保健指導 カンファレンス				
	11	新生児の観察・看護 褥婦の看護援助		新生児の観察・情報収集・アセスメント 産褥経過の観察・看護援助・保健指導 カンファレンス				
	12	最終評価		出産・育児にかかわる社会資源の理解 実習の振り返り 記録一式 評価表提出 学びレポート				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 履修時間の3分の2以上(8日間以上)の出席時間をもって評価を受けることができる。								

臨地実習

科目名		精神看護学実習		指導担当者名		渋谷 慶子		
実務経験		看護師として病院勤務の経験有り				実務経験		有
開講時期		3年次・前期			対象学科学年		看護学科 3年	
授業方法		講義:		演習:		実習:○		実技:
単位・時間数		2単位・90時間			週時間数		30時間	
学習目的		精神に障害のある人および家族を理解し、看護が実践できる基礎的能力を養う						
学習目標		1. 精神に障害のある人の特徴が理解できる 2. 精神に障害のある人への看護が実践できる 3. 地域で生活している精神に障害のある人への支援について理解できる 4. 精神に障害のある人の人権擁護について理解できる						
評価方法 評価基準		実習評価表に基づき、学生・実習指導者・担当教員の三者で協議し評価する。 成績評価、課程の修了及び卒業判定基準は学則・細則に定めている。						
使用教材		実習要綱						
授業外学習の方法		その日の実習の学びを整理し、毎日実習レポートを提出する						
学期	回数	項目		授業内容				
授業計画 前期	1	オリエンテーション		病棟の理解 受け持ち患者の情報収集 カンファレンス				
	2	施設見学		外来・救急病棟・リハビリテーションセンター グループホーム デイケア・地域活動支援センター				
	3	看護援助		情報収集・アセスメント 看護援助 関連図カンファレンス				
	4	看護援助 中間評価		対象の情報収集・アセスメント 関連図提出 カンファレンス				
	5	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画の検討 カンファレンス				
	6	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画提出 カンファレンス				
	7	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 プロセスレコード提出 カンファレンス				
	8	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 体験学習(隔離・拘束) カンファレンス				
	9	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画評価 カンファレンス				
	10	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 看護計画修正 カンファレンス				
	11	看護援助		情報収集・アセスメント・看護援助 最終カンファレンス 記録一式 評価表提出 学びレポート				
	12	看護援助 最終評価		受け持ち患者への挨拶 実習の振り返り 記録一式 評価表提出 学びレポート				
履修上の留意点 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 履修時間の3分の2以上(8日間以上)の出席時間をもって評価を受けることができる。								